

第 40 回北方圏国際シンポジウム オホーツク海と流氷

The 40th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans



A polar bear with an electromagnetic induction ice thickness profiler photographed in the Canada Basin on August 18, 2008

と き 2026年2月15日（日）～18日（水）

ところ 紋別市民会館 紋別市文化会館 紋別市立博物館 まちなか芸術館

15-18 February 2026

**Mombetsu Arts & Culture Center, Mombetsu Municipal Museum
Mombetsu Machinaka Art Museum, Mombetsu Citizens' Public Hall**

北方圏国際シンポジウム

開催趣旨

世界の海の10%を覆う海氷は、地球の熱的バランスの大きな要素として大気・海洋大循環の駆動力を生み出しています。オホーツク海は世界で最も低緯度の凍る海であり、流氷の南限です。毎冬、オホーツク海の60～70%は流氷野となり、私たちの生活にも功罪両面の働きをしています。さらに最近の地球温暖化の影響により北極海の水氷面積は急激に減少し、様々な環境問題を引き起こしています。一方で太平洋と欧州を結ぶ「北極海航路」が注目されるようになりましたが、それを取り巻く国際情勢は微妙な状況にあります。

海氷/流氷は地球環境のみならず、水産業、農業、工業などの生産活動にも深く関わっています。シンポジウムでは、最新の海氷研究から地球温暖化、環境問題、海洋生物、北極海航路、極地、オホーツク地域の諸問題まで様々な話題を取り上げています。

北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流氷」は、1986年に第1回が開催されて以来、毎年紋別市で開催しています。2021年はコロナのため中止になりましたが2024年には再開、本年2026年は、第40回という節目の年をむかえ、様々なテーマで多くの研究発表が行われます。参加者全員が実りある議論を行い、交流を深める場になる事を願っています。ぜひシンポジウムをお楽しみください。

- 主 催 紋別市
- 共 催 北海道大学北極域研究センター
- 主 管 北方圏国際シンポジウム実行委員会
- 後 援 国立極地研究所, (国研)海洋研究開発機構, 北海道大学低温科学研究所, 北見工業大学
東海大学札幌キャンパス, 東京農業大学生物産業学部, 東京海洋大学
北海道大学大学院水産科学研究院, 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
東京大学大気海洋研究所, (国研)水産研究・教育機構水産資源研究所
(国研)宇宙航空研究開発機構, 北極環境研究コンソーシアム
(一財)リモート・センシング技術センター, (公社)日本雪氷学会, (一社)日本海洋学会
(公社)日本気象学会, (公社)日本水産学会北海道支部, 国土交通省, 文部科学省, 水産庁
北海道, 北見市, 網走市, オホーツク町村会, (公社)北海道国際交流・協力総合センター
(公財)北海道環境財団, 国際交流基金, (公財)オホーツク生活文化振興財団
(公財)札幌国際プラザ, 北海道新聞社, (株)北海民友新聞社

-
- 協 賛 道外・道内関係企業 五洋建設(株), 北日本港湾コンサルタント(株),
(株)石本建築事務所, (株)ズコーシャ, 日東建設(株), 電通設備(株), 大槻理化学(株),
日本データサービス(株), 日本工営(株), (株)建設技術研究所, 住友金属鉱山(株),
(株)藤共工業, ジオテック(株), 三菱電機(株) (順不同)
 - 市内関係団体 紋別市議会, 紋別医師会, 北見歯科医師会紋別歯科医師団,
紋別商工会議所, 紋別漁業協同組合, 紋別漁業協同組合定置部会・モガニ部会,
オホーツクはまなす農業協同組合, オホーツク中央森林組合, 紋別港ロータリークラブ,
紋別ロータリークラブ, 紋別オホーツクライオンズクラブ, 北海道税理士会北見支部,
流氷倶楽部, 北海道大学同窓会紋別支部 (順不同)
 - 市内関係企業 (株)マルカイチ水産, 丸銀漁業(株), (有)丸富渡辺水産, (株)吉岡水産,
(株)ヤマイチ水産, 北方建設産業(株), 鈴木建設(株), (株)西村組紋別支店, 渋谷海運(株),
旭ダンケ(株)紋別工場, 佐藤木材工業(株), (株)渡辺組紋別支店, 川村建設(株),
(株)中央製作所, 関電気(株), 山本電工(株), 紋別バイオマス発電(株), 佐藤電気(株),
(株)成田設備工業, 北見信用金庫紋別支店, 北洋銀行紋別支店, (株)協和土木工業,
北海道銀行紋別支店, 遠軽信用金庫紋別支店, イオン北海道(株)イオン紋別店,
シティもんべつ店, 日東水産(株)紋別営業所, みゆき観光開発(株), (株)紋別セントラルホテル,
紋別プリンスホテル(株), オホーツク・ガリンコタワー(株), (有)ゆやフラワー, (株)しめまる,
よつ葉乳業(株), オホーツクソーテック(株), (株)民友商事, (株)北海民友新聞社, (株)ソーゴー,
横田印刷(株), 白野商店(株), (株)伊藤建材店, カラーセンター, 北東リテック(株), 手塚興産(株),
(株)紋別観光振興公社, 北紋バス(株), 紋別市役所役長会・部長会・課長会 (順不同)

日程と内容

2月15日(日)

紋別市市民会館 大ホール

14:30～16:40 開会式

- 主 催 者 挨 拶 紋別市長 山崎 彰則
- 実行委員長挨拶 北方圏国際シンポジウム実行委員会委員長 大塚 夏彦
- 来 賓 祝 辞 北海道オホーツク総合振興局長 野村 博明
- 海外講師紹介

《カナダ》

Dr. Kumiko Azetsu-Scott	Bedford Institute of Oceanography
Dr. Aileen Aseron Espiritu	UiT, The Arctic University of Norway
Ms. Christine Guilbault	Embassy of Canada
Ms. Theresa De Haan	Embassy of Canada
Ms. Geneva Nobles	Qikiqtani Inuit Association
Mr. Richard Paton	Qikiqtani Inuit Association
Prof. Rocky Taylor	Memorial University of Newfoundland

《フィンランド》

Prof. Kamrul Hossain	University of Lapland
----------------------	-----------------------

《イタリア》

Dr. Alberto Alberello	University of East Anglia
Mr. Lorenzo Ercolani	Hofdi Cottages
Ms. Sara Fusco	University of Lapland & University of Akureyri

《ノルウェー》

Prof. Geir Hønneland	Fridtjof Nansen Institute
----------------------	---------------------------

《台湾》

Dr. Yu-Chiao Liang	National Taiwan University
--------------------	----------------------------

《イギリス》

Prof. Emilian Parau	University of East Anglia
---------------------	---------------------------

《アメリカ》

Mr. Billy Adams	North Slope Borough
Prof. Courtney Carothers	University of Alaska Fairbanks
Ms. Roberta Tuurraq Glenn	University of Alaska Fairbanks
Dr. Sonia Ibarra	University of Alaska Fairbanks
Mr. Nick Jacuk	University of Alaska Fairbanks
Dr. Emily Lescak	University of Alaska Fairbanks

- 海外研究者のご挨拶

カムラル ホッサイン ラップランド大学, フィンランド

- アトラクション 紋別大谷認定こども園 西川流花菱会

- 記念講演 北方圏国際シンポジウム40年の歩み
高橋 修平 (オホーツク流水科学センター)

- 特別講演 生きることは食べること
森崎 博之 (TEAM NACS リーダー)

18:00～19:30 記念レセプション

【3階小ホール】

2月16日(月)

紋別市文化会館 1階ホール

9:00～9:10 学術分科会開会式

開会のことば 大塚 夏彦 (北方圏国際シンポジウム実行委員会)
青田昌秋賞の説明

9:10～11:15 基調講演 A:

9:10 **A-1** 北極海航路研究の40年と現在地
酒井 英次 (笹川平和財団)

9:40 **A-2** Canada's Arctic foreign policy
ギルボールト クリスティーン, ハーン デ テレッサ (カナダ大使館)

10:05 **A-3** Inuit-led conservation in the Canadian Arctic
パトン リチャード, ノーブル ジェニーバ (カナダ キキクタニ イヌイト協会)

10:40 **A-4** 北方圏国際シンポジウム40周年:オホーツク海・極域研究の歩みと未来
高橋 修平 (流水科学センター), 福地 光男 (極地研)

13:30～15:30 市民公開講座:オホーツク～ふるさとの海

I. 水産物の鮮度保持技術と冷凍技術について
守谷 圭介 (網走水試)

II. 北海道オホーツク海側でのサケ・マスの資源状況と回復へ向けた取り組み
宮腰 靖之 (北見管内さけ・ます増殖事業協会)

15:40～18:10 学術分科会 B: 氷海の生物・水産

紋別市文化会館 3階特別会議室

13:00～18:00 ワークショップ C: 極域気候変動への統合的アプローチを目指した
次世代観測とモデル研究

紋別市文化会館 3階サークル室

13:00～14:00 学術分科会 D: 極域工学

14:10～17:20 学術分科会 E: 寒冷地社会・複合領域

紋別市立博物館

13:00～14:20 ワークショップ F: 海氷研究のための AI・機械学習の活用に向けて

まちなか芸術館

13:00～17:00 学術分科会 G: オンラインセッション
IARC, 笹川平和財団セッション
学術分科会

2月17日(火)

紋別市文化会館 1階ホール

9:00～15:30 ワークショップ H： 岐路に立つ北極ガバナンス：変わりゆく北極域のガバナンスの
解明と将来像の探究

16:00～18:00 市民公開講座：地域防災力向上について考える

I. 令和8年からの新たな防災気象情報について 三浦 亜紀子（網走地方气象台）

II. 北海道における防災意識向上の取組みについて 山口 朗生（オホーツク総合振興局）

パネルディスカッション

防災教育や災害ボランティア、避難所運営など自助・共助の取り組みを知る

紋別市文化会館 3階特別会議室

9:00～10:25 ワークショップ I： 北極政策と科学, 利用

10:35～18:00 ワークショップ J： 氷海の変動把握と新たな利用

紋別市文化会館 3階サークル室

9:00～11:30 学術分科会 K： 海洋物理・化学, 気候

13:00～14:45 ワークショップ L： 南極氷床とグローバルな気候システムとの相互作用

14:55～17:50 ワークショップ M： オホーツク海：地球のクールスポットが生み出す
特異な気象・気候

紋別市立博物館

9:00～11:55 ワークショップ N： 寒冷域におけるプランクトン生態学：分子から生態系まで

13:30～14:55 ワークショップ O： 北海道の水産資源管理および栽培漁業に関する研究の
現状と課題

15:05～18:00 ワークショップ P： 環境と社会の変化に応答する海鳥・海棲哺乳類

紋別セントラルホテル

19:00～20:30 交歓の夕べ

2月18日(水)

紋別市文化会館 1階ホール

9:00～10:50 ワークショップ Q： 北極・南極科学における若手人材育成事業

11:00～11:30 学術分科会閉会式

講 評

青田昌秋賞表彰式

閉会のことば 大塚 夏彦（北方圏国際シンポジウム実行委員会）

2月18日(水)

紋別市文化会館 1階ホール

14:00～16:00 市民公開講座：森から海の連環を考えるシンポジウム

最先端林業の現状～カラマツに圧密技術を応用した高硬度材料の開発～

第1部 講演会

I. 圧密技術の背景と目的

佐々木 貴信 (北大院農)

II. カラマツ圧密材の製造方法と基礎物性

古田 直之 (道総研林産試験場)

III. カラマツ圧密材の家具接合部の強度試験

塚本 優佳 (北大院農)

IV. カラマツ圧密材を用いた椅子開発と商品化

山上 裕一朗 ((株)山上木工)

第2部 パネルディスカッション 「カラマツに圧密技術を応用した高硬度材料の開発」

紋別市立博物館

13:30～17:20 市民公開講座：オホーツク・テロワールシンポジウム2026 in 紋別

オホーツク文化が残したメッセージ

～オホーツク文化の原点とオホーツク・ツーリズムの未来と可能性を探る第3弾

第1部 各分野の実践報告の中から、オホーツク文化の発信のヒントを探る

I. 遺跡を活かした観光 田才 雅彦 (文化財サポート)

II. 縄文アートを旅しようを出版して 清水 恭子 (求龍堂出版)-Zoom 参加

III. オホーツク文化を巡る旅の可能性について 宮下 麻美 (北大院観光)

IV. 道東の未来について 中西 拓郎 (ドット道東)

第2部 パネルディスカッション

展示

紋別文化会館 3階ロビー

【Extra】

Ex-1 黒潮大蛇行:2017-2025

中陣 隆夫 (東海大)

Ex-2 博愛丸事件から百年、小説・蟹工船～蟹缶詰の歴史と紋別

山田 雅也 (北海道文化財保護協会)

紋別市民会館 大ホール

13:10～14:30 子ども流氷シンポジウム

I. オホーツク海の流氷と地球環境

大塚 夏彦 (流氷科学センター)

II. 北極の暮らし

パトン リチャード, ノーブル ジェニーバ (カナダ キキクタニ イヌイト協会)

流氷クイズ大会

2月14日(土)～3月22日(日)

オホーツク流氷科学センター

協賛行事 「写真展オホーツク物語7 -大切な時間-

北海道内外の皆さんへオホーツクの魅力を発信することを目的とし、オホーツク地域ならではの自然の景色や動植物を個性豊かな写真で紹介します。

日程表

2月	会 場		午 前	午 後
15日 (日)	市民 会館	大ホール		14:30-16:40 開会式 記念講演・特別講演 「北方圏国際シンポジウム40年の歩み」 高橋修平(流水科学センター) 「生きることは食べること」 森崎博之(Team NACS リーダー)
16日 (月)	文化 会館	1 階 ホール	9:00- 9:10 学術分科会開会式 9:10-11:15 基調講演 A:	13:30-15:30 市民公開講座 オホーツク～ふるさとの海 15:40-18:10 学術分科会 B: 氷海の生物・水産
		3階 特別 会議室		13:00-18:10 ワークショップ C: 極域気候変動への統合的アプローチを 目指した次世代観測とモデル研究
		3 階 サークル室		13:00-14:00 学術分科会 D: 極域工学 14:10-17:20 学術分科会 E: 寒冷地社会・複合領域
	博 物 館	郷土 学習室		13:00-14:20 ワークショップ F: 海水研究 のための AI・機械学習の活用に向けて
		まちなか 芸術館		13:00-17:00 オンラインセッション G: IARC, 笹川平和財団セッション 学術分科会
17日 (火)	文化 会館	1 階 ホール	9:00-15:30 ワークショップ H: 岐路に立つ北極ガバナンス: 変わりゆく北極 域のガバナンスの解明と将来像の探究	16:00-18:00 市民公開講座 「地域防災力向上について考える」
		3階 特別 会議室	9:00-10:25 ワークショップ I: 北極政策と科学, 利用	10:35-18:10 ワークショップ J: 氷海の変動把握と新たな利用
		3 階 サークル室	9:00-11:30 学術分科会 K: 海洋物理・化学, 気候	13:00-14:45 ワークショップ L: 南極氷床 とグローバルな気候システムとの相互作用 14:55-17:50 ワークショップ M: オホーツク海: 地球のクールスポットが 生み出す特異な気象・気候
	博 物 館	郷土 学習室	9:00-11:55 ワークショップ N: 寒冷域におけるプランクトン生態学: 分子から生態系まで	13:30-14:55 ワークショップ O: 北海道の水産資源管理および栽培漁業に 関する研究の現状と課題 15:05-18:00 ワークショップ P: 環境と社会 の変化にตอบสนองする海鳥・海棲哺乳類
18日 (水)	文化 会館	1 階 ホール	9:00-10:50 ワークショップ Q: 北極・南極科学における若手 人材育成事業 11:00-11:30 学術分科会閉会式	14:00-16:00 市民公開講座 「森から海の連環を考えるシンポジウム」
	博 物 館	郷土 学習室		13:30-17:20 市民公開講座 「オホーツク・テロワールシンポジウム」
	市民会館 大ホール			13:10-14:30 子ども流水シンポジウム

□ 市民公開講座は、無料です。

□ 期間中、紋別文化会館1階ロビーで「技術展示-観測機器の紹介」を行っています。

□ 18日(水) 青田昌秋賞表彰式終了後、文化会館から、空港までバスがでます。

技 術 展 示

場 所: 紋別市文化会館 1階ロビー

日 時: 2月16日(月曜日)～2月18日(水曜日) 9:30～16:30 (18日は12:00迄)

英弘精機株式会社

『気象観測機器・システムのご案内』



雨や雪観測、太陽放射（UV、可視、IR）、
空気品質（エアロゾル）など、様々な用途
に応じた機器・観測システムをご紹介

☎151-0072

東京都渋谷区幡ヶ谷 1-21-8

☎ : 03-3469-6714

FAX : 03-3469-6719

担当 : 内堀 崇

E-mail : uchibori@eko.co.jp

www.eko.co.jp

氷海研究グループ (International Advisory Committee)

- ◆ Hajo Eicken, University of Alaska, Fairbanks, USA
- ◆ 榎本 浩之 国立極地研究所
- ◆ 畑山 誠 北海道立総合研究機構網走水産試験場
- ◆ 岩本 勉之 紋別市
- ◆ 泉山 耕 北海道大学
- ◆ 片倉 靖次 紋別市
- ◆ 北川 弘光 海洋政策研究所
- ◆ 道田 豊 東京大学
- ◆ Ferdenant Mkrtchyan, Institute of Radioengineering & Electronics, Russia
- ◆ 長井 敏 水産技術研究所
- ◆ 西岡 純 北海道大学
- ◆ 西山 恒夫 東海大学 名誉教授
- ◆ 大塚 夏彦 北海道大学
- ◆ 尾関 俊浩 北海道教育大学札幌校
- ◆ 杉山 慎 北海道大学
- ◆ 田口 哲 国立極地研究所
- ◆ 高橋 修平 北見工業大学 名誉教授
- ◆ 舘山 一孝 北見工業大学
- ◆ 山口 一 国立極地研究所 (アルファベット順)

9:00	【学術分科会開会式】 開会のことば: 大塚夏彦 (北方圏国際シンポジウム実行委員会) 青田昌秋賞について: 司会: 片倉靖次 (紋別市)
9:10	【A: 基調講演】 A-1 北極海航路研究の 40 年と現在地 ○酒井英次 (笹川平和財団) 座長: 大塚夏彦 (流水科学センター)
9:40	A-2 Canada's Arctic foreign policy ○ギルボールト クリスティーン, ハーン デ テレッサ (カナダ大使館)
10:05	A-3 Inuit-led conservation in the Canadian Arctic ○パトシ リチャード, ノーブル ジェニーバ (カナダ キキクタニ イヌイト協会)
10:30	休憩
10:40	A-4 40th anniversary of the International Symposium: Legacy and future of Okhotsk and Polar Oceans studies ○高橋修平 (流水科学センター), 福地光男 (極地研)
11:15	昼食
13:30 15:30	【市民公開講座: オホーツク～ふるさとの海】 I. 水産物の鮮度保持技術と冷凍技術について 守谷圭介 (網走水試) II. 北海道オホーツク海側でのサケ・マスの資源状況と回復へ向けた取り組み 宮腰靖之 (北見管内さけ・ます増殖事業協会)
15:30	休憩
15:40	【B: 氷海の生物・水産】 B-1 Biological and ecological characteristics of Arctic charr caught by artisanal gillnet fishing in the coastal areas of Northwest Greenland ★B 辻村匠真, 富安信, 山野将輝, 藤森康澄 (北大院水産), 杉山慎 (北大低温研), 三谷曜子 (京大野生動物研) 座長: アイリーン アラビア (北大北極セ)
16:00	B-2 Pollution of blue mussels due to dumpsite in Qaanaaq in northwestern Greenland ★B 山野将輝 (北大院水産), 深澤達矢, 東條安匡 (北大院工), 富安信 (北大院水産), 池内珠実 (北大工), 辻村匠真, 藤森康澄 (北大院水産), 杉山慎 (北大北極セ/北大低温研), 三谷曜子 (京大野生動物研)
16:20	B-3 Use of the Okhotsk Tower as an Artificial Submerged Structure by <i>Sebastes taczanowskii</i> ○中根幸則 (電中研), 富安信 (北大水), 占部雄太 (ガリンコタワー), 片倉靖次 (紋別市)
16:40	B-4 Live fish transportation of cresthead flounder <i>Pseudopleuronectes schrenki</i> and threestripe rockfish <i>Sebastes trivittatus</i> from Mombetsu in the Sea of Okhotsk coast ○片倉靖次 (紋別市), 伊藤俊之 (伊藤釣具店), 春見達郎 (旭川医科大), 松原創 (金沢大学)
17:00	休憩
17:10	B-5 Conceptualizing a Pan-Pacific salmon knowledge portal ○Emily Lescak (Univ. Alaska Fairbanks, USA), Matthew Jones, Maggie Klope (Univ. California Santa Barbara, USA), William Manley (Univ. Colorado, USA), Craig Tweedie (Univ. Texas El Paso, USA), Shirley Stephen (Univ. California Santa Barbara, USA), 長谷川功, 飯野佑樹 (水産機構・資源研), Irene Alabia (Hokkaido Univ.), Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
17:30	B-6 Habitat estimation in salmon driftnet fishing grounds by integrating satellite ocean color data into fisheries observations ★B 飯野佑樹, 佐藤俊平 (水産機構・資源研)
17:50	B-7 Recent climate-induced marine habitat shifts drive Japanese chum salmon decline ○アイリーン アラビア (北大北極セ/アラスカ大), 齊藤誠一 (北大北極セ/デジタル北海道コミュニティ/グリーン&ライフ・イノベーション), Jorge García Molinos, 平田貴文 (北大北極セ), 宮腰靖之 (北見管内さけ・ます増殖事業協会), 高橋文宏 (グリーン&ライフ・イノベーション), 上野洋路 (北大水), 帰山雅秀 (北大北極セ)

【C:ワークショップ, 極域気候変動への統合的アプローチを目指した次世代観測とモデル研究】

13:00 趣旨説明, 座長:猪上淳 (極地研)

13:05 **C-1** Investigating the impacts of Arctic sea ice loss on large-scale atmospheric circulation using physical and hybrid climate models

○Yu-Chiao Liang (Ntl. Taiwan Univ., Taiwan), Nicholas J. Lutsko (Scripps Inst. Oceanography, USA) and Young-Oh Kwon (Woods Hole Oceanographic Inst., USA)

13:20 **C-2** Rebuilding Arctic atmospheric observing capacity: A scalable pathway from enhanced campaigns to community-led monitoring

○猪上淳 (極地研), Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA)

13:35 **C-3** Predictability of sensor icing caused by supercooled fog in polar ocean operations

-Part 2: Evaluating inversion layers

○末吉惣一郎 (日本海洋事業), 竹谷文一 (JAMSTEC)

13:50 **C-4** Validation and analysis of cloud microphysical properties using the EarthCARE satellite in the Arctic

○河野香 (九大院総理工), 岡本創, 佐藤可織 (九大応力研)

14:05 **C-5** Arctic weather patterns in summer and their representation in a large ensemble climate simulation

○山上晃央 (埼玉県環境科学国際センター), 豊田隆寛 (気象研)

14:20 休憩

座長:小野純 (極地研)

14:30 **C-6** Ocean acidification in Arctic gateways: Insights from the Canadian Arctic

○Kumiko Azetsu-Scott (Bedford Inst. Oceanography Canada, Canada) and Craig Lee (Univ. Washington, USA)

14:45 **C-7** Vortex merger and instability

★P 宝迫美央 (海洋大科), 島田浩二 (海洋大)

15:00 **C-8** Hydrographic changes in the Arctic Ocean

○島田浩二 (海洋大), 高林由美, 早川晃平 (海洋大科), 原田倫 (海洋大)

15:15 **C-9** Revealing the structure of the oceanic Beaufort Gyre using Arctic surface current datasets

○原田倫, 島田浩二 (海洋大)

15:30 **C-10** Re-examination of the Bering Strait throughflow: The importance of non-geostrophic components in the sea ice-ocean boundary layer

★P 早川晃平 (海洋大科), 島田浩二 (海洋大)

15:45 休憩

座長:和賀久朋 (アラスカ大/極地研)

15:55 **C-11** Factors of sea ice variation in the Barents and Kara seas during the entire winter

★P 大石奏溪 (海洋大科), 島田浩二 (海洋大)

16:10 **C-12** Toward seasonal-to-interannual Arctic sea-ice forecasts using a climate model

○小野純 (極地研), 小室芳樹, 建部洋晶 (JAMSTEC), 木村詞明 (東大院新領域), 矢吹裕伯 (極地研)

16:25 **C-13** Origin and fate of sediment-laden sea ice: contribution to material transport

★P 和賀久朋 (アラスカ大/極地研), 久賀みづき (北大低温研/水産機構資源研), 木村詞明 (東大院新領域), 中田和輝 (JAXA), 大島慶一郎 (北大低温研)

16:40 **C-14** Size distribution of particulate matter inside sea ice in Lützow-Holm Bay

○伊藤優人 (東大院新領域), 田村岳史 (極地研/総研大), 高橋啓伍 (北大水), 吉田淳 (極地研), 舘山一孝 (北見工大), 塩崎拓平 (東大大気海洋研), 佐藤拓哉 (東大院農), 青木茂, 大島慶一郎, 的場澄人 (北大低温研), 伊村智 (極地研/総研大), 渡辺豊 (北大院環境), 牛尾収輝 (極地研), 梶田展人 (弘前大院環境), 松田亮 (創価大院理工), 真壁竜介 (極地研/総研大), 溝端浩平 (海洋大)

16:55 休憩

	【C:ワークショップ, 極域気候変動への統合的アプローチを目指した次世代観測とモデル研究】 座長: 吉田淳 (極地研)
17:05	C-15 Shipborne measurements of mineral dust and black carbon aerosols over the Southern Ocean in the austral summer ★P 吉田淳 (極地研), 當房豊 (極地研/総研大), 小林拓 (山梨大), 足立光司 (気象研), 茂木信宏 (東京都立大), 猪上淳 (極地研/総研大)
17:20	C-16 Reproducibility of surface downward radiation in the regional climate model and reanalysis at Dome Fuji, Antarctica ★P 山田恭平 (極地研), 猪上淳 (極地研/総研大)
17:35	C-17 Three-dimensional atmospheric rivers contribute to Antarctic precipitation ★P 高橋和 (総研大), 猪上淳, 佐藤和敏, 平沢尚彦 (総研大/極地研), 山田恭平 (極地研)
17:50	総合討論

	【D:極域工学】 座長: 金野祥久 (工学院大)
13:00	D-1 Framework and trial calculations of navigability assessment of ships in ice waters, 2nd Report: Simple assessment method using continuous icebreaking capability ○宇都正太郎 (北大北極セ), 大塚夏彦 (流氷科学センター/北大北極セ)
13:20	D-2 Comparison of ice resistance in brash ice channel between numerical simulation and ice tank tests ○安齋圭祐, 水野滋也, 山内豊 (ジャパン マリンユナイテッド)
13:40	D-3 Laboratory study of ice floe impact loads on a structure in waves ★E Hongtao Li, 早稲田卓爾 (東大院新領域), 澤村淳司 (大阪大), Raed Lubbad (Norwegian Univ. Sci. Tech., Norway)
14:00	休憩
	【E:寒冷地社会・複合領域】 座長: 高橋修平 (流氷科学センター)
14:10	E-1 Exporting sweet mini tomato making system to Russia -Developing automated water supply system for highways in Hokkaido- ○松村寛一郎 (金城大), Kuzin Vitaly Dmitrievich (Nizhny Novgorod University, Russia), 森田聡 (北陸大)
14:30	E-2 “Temperature-adjustable bench” Kansei Assessment in Cold Regions -Nikko City zero carbon promotion project- 藤田愛由, ○堀尾佳以, 近藤瑞菜, Muhammad Nazeem Azhad Bin Muhammad Afifi, Jinseok Seo, 北園恭平 (宇都宮大工), 横尾昇剛 (宇都宮大)
14:50	E-3 The history and functions of the Antarctic midwinter festival in a closed environment ★I 杉田友華 (北大院環境)
15:10	E-4 Co-creating walkable winter cities: A case study of the City of Sapporo Tran Thi Tu Uyen (北大院経), 五十嵐千夏 (北大院文), Kristine Marie Apaya Casals (北大院工), Eman H. E. Toulbah (北大院工), ○ロマーエヴァ マリーナ (北大北極セ)
15:30	休憩
15:40	E-5 Practical disaster preparedness education through the “Do-HUG” shelter management game: A case study from Noboribetsu City, Hokkaido ★I 中野佑美 (北大工), 加藤知愛 (北大北極セ)
16:00	E-6 Russia’s post-2022 Arctic expert discourse: The Northern Sea Route and Asia ○ロマーエヴァ マリーナ (北大北極セ), ススロフ アルチョーム (北大院文), サウナワラ ユハ (北大北極セ)
16:20	E-7 Tamamta (All of Us): Uplifting indigenous knowledge and stewardship to transform fisheries and education in Alaska ○Courtney Carothers, Jessica Black, Peter Westley, and Sonia Ibarra (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
16:40	E-8 Characteristics of social infrastructure development and maintenance for industrial creation in northern regions: Insights from linguistic data of next-generation executives of construction companies 加藤知愛, ○サウナワラ ユハ (北大北極セ)
17:00	E-9 Toward resilient futures: Integrating critical geopolitics and societal security foresight in Arctic urban sustainability ○Aileen Aseron Espiritu (UiT Arctic Univ. Norway, Norway)

2026 年 2 月 16 日 (月)

紋別市立博物館

	【F:ワークショップ, 海氷研究のための AI・機械学習の活用に向けて】
13:00	趣旨説明, 座長: 小野純 (極地研)
13:05	F-1 Future developments of sea ice information utilizing AI and numerical models by ADS and the Arctic and Antarctic Sea Ice Information Center (ASIC) ○矢吹裕伯, 杉村剛, 丹羽淑博 (極地研), 大山元夢 (工学院大院工), 小野純 (極地研)
13:20	F-2 Development of a sea-ice prediction model with machine learning ○小野純 (極地研), 大山元夢 (工学院大院工), 矢吹裕伯 (極地研)
13:35	F-3 Sea ice concentration prediction in the coastal region of Shiretoko using deep learning and a comparison between Utoro and Rausu ○吉田彩乃 (北見工大大院工), 館山一孝 (北見工大)
13:50	F-4 An attempt to automate shipborne visual sea ice observations using AI-driven analysis of onboard camera imagery ○館山一孝 (北見工大工), 星野聖太 (東大), 長尾碧 (北見工大工)
14:05	総合討論
14:20	休憩

2026 年 2 月 16 日 (月)

まちなか芸術館

13:00	【G: オンラインセッション】 [IARC 笹川平和財団セッション] “Supporting Indigenous Approaches to Climate Change Response” by Sasakawa Peace Foundation and The International Arctic Research Center of the University of Alaska Fairbanks I. ○渡邊敦 (笹川平和財団), 小森雄太 (東京財団/明治大) II. ○Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA) 発表者: 岩花剛, Courtney Carothers, Nick Jacuk, Sonia Ibarra, Roberta Tuurraq Glenn, Emily Lescak (Univ. Alaska Fairbanks, USA), Billy Adams (Utqiagvik)	座長: 大塚夏彦 (笹川平和財団)
15:50	休憩	
16:00	【学術分科会】 G-1 Characteristics of sea ice leads in the Laptev and East-Siberian Seas retrieved from SuomiNPP VIIRS images ○Anastasia A. Ershova, Lyudmila N. Dymant, Ekaterina G. Bojkaya, and Karina G. Kortikova (Arctic Antarctic Res. Inst., Russia)	座長: 大塚夏彦 (笹川平和財団), ススロフ アルチョーム (北大院文)
16:20	G-2 On the features of pollution spreading in high latitudes ○Ferdinand Mkrtychyan, Evgeny Novichikhin, and Maxim Mkrtychyan (Kotelnikov Inst. Radioengineering Electronic, Russia)	
16:40	G-3 About remote monitoring systems to study of the marine ecosystems ○Ferdinand Mkrtychyan (Kotelnikov Inst. Radioengineering Electronic, Russia)	

2026 年 2 月 17 日 (火)

文化会館 1 階ホール

	【H:ワークショップ, 岐路に立つ北極ガバナンス: 変わりゆく北極域のガバナンスの解明と将来像の探究】
9:00	趣旨説明, 木村元 (JAMSTEC) I. 北極環境ガバナンス 座長: 礪波亜希 (筑波大)
9:05	H-1 Multilateral cooperation for cetacean conservation in northern seas: Regime complexes and institutional interplay ○大久保彩子 (東海大人文)
9:25	H-2 The ICJ advisory opinion on climate change and the Arctic: Recognition of disproportionately higher risk and procedural participation of Arctic States ○久保田泉 (環境研)
9:45	H-3 Mechanisms of citizen participation and remedy in the new governance theory ○礪波亜希 (筑波大)
10:05	休憩

2026年2月17日(火)

文化会館 1階ホール

	【H:ワークショップ, 岐路に立つ北極ガバナンス: 変わりゆく北極域のガバナンスの解明と将来像の探究】 Ⅱ. 北極地域ガバナンス 座長: サウナワラ ユハ (北大北極セ)
10:15	H-4 Institutional resilience of the Russia-Norway and Russia-Japan's post-2022 fisheries cooperation ○ロマーエヴァ マリーナ (北大北極セ), Geir Hønneland (Fridtjof Nansen Inst., Norway), 濱田武士 (北海学園大)
10:35	H-5 Local communities in the Arctic infrastructure development driven by tourism and national security concerns ○サウナワラ ユハ (北大北極セ), 福山貴史 (北大院観光学)
10:55	H-6 Economic development of the Russia's Arctic and Far Eastern Regions after 2022 ○田畑伸一郎 (北大)
11:15	昼食
	Ⅲ. 北極科学ガバナンス 座長: 木村元 (JAMSTEC)
13:00	H-7 The significance of the CAOFA in the current Arctic cooperation: Through the lense of science diplomacy ○稲垣治 (神戸大)
13:20	H-8 Legal and practical considerations of marine scientific research in the Arctic Ocean -The case of Japan's new Arctic research vessel Mirai II- ○木村元 (JAMSTEC)
13:40	H-9 International economic law issues concerning indigenous traditional hunting: focusing on small cetacean subsistence hunts ○小林友彦 (樽商大)
14:00	休憩
	Ⅳ. 北極政策 座長: 木村元 (JAMSTEC)
14:10	H-10 Japan's Arctic policy network: Key actors in national diet discourse ○ススロフ アルチョーム (北大院文), 大西富士夫 (北大北極セ)
14:30	H-11 From rights on paper to Arctic policy in practice: Indigenous participation and energy transition ★I Sara Fusco (Univ. Lapland, Finland/Univ. Akureyri, Iceland)
14:50	H-12 Advancing Taiwan's Arctic engagement: Geopolitics, identity, and scientific stakeholding ○Aileen Aseron Espiritu, Marc Lanteigne (UiT Arctic Univ. Norway, Norway) and Tse-Kang Leng (Academia Sinica/Ntl. Chengchi Univ., Taiwan)
15:10	総合討論
15:30	休憩
	【市民公開講座: 地域防災力向上について考える】 司会: 森修二 (網走開発建設部)
16:00	挨拶: 大塚夏彦 (北方圏国際シンポジウム実行委員会)
16:05	I. 令和8年からの新たな防災気象情報について 三浦亜紀子 (網走地方気象台)
16:25	II. 北海道における防災意識向上の取組みについて 山口朗生 (オホーツク総合振興局)
16:40	休憩
16:50	パネルディスカッション: 防災教育や災害ボランティア、避難所運営など自助・共助の取り組みを知る コーディネーター: 根本昌宏 (日本赤十字北海道看護大学) <パネリスト> 居島修 (網走地方気象台), 石川晃生 (紋別市立渚滑中学校) 清水萌永 (紋別社会福祉協議会), 石川眞 (紋別市)
17:55	挨拶: 鈴木武彦 (網走開発建設部)
19:00	交歓のタベ 紋別セントラルホテル

【I:ワークショップ, 北極政策と科学, 利用】	
9:00	趣旨説明, 座長: 幡谷咲子 (笹川平和財団), 大塚夏彦 (笹川平和財団/北大北極セ/流水科学センター)
9:05	I-1 Human activity and the Arctic Ocean ○大塚夏彦 (笹川平和財団/北大北極セ/流水科学センター)
9:25	I-2 Reviewing Japan's Arctic policy through the multi-sectoral study group ○幡谷咲子 (笹川平和財団)
9:45	I-3 Japan's Arctic science contribution and science diplomacy ○榎本浩之 (極地研/笹川平和財団)
10:05	I-4 The Sasakawa Peace Foundation's Arctic initiatives: Looking at the past, present, and future ○小森雄太 (東京財団/明治大)
10:25	休憩
【J:ワークショップ, 氷海の変動把握と新たな利用】	
10:35	趣旨説明, 座長: 早稲田卓爾 (東大院新領域)
10:40	J-1 A new sea ice thickness dataset and its application to Arctic sea ice prediction ○木村詞明 (東大院新領域), 羽角博康 (東大大気海洋研), 早稲田卓爾 (東大院新領域)
11:00	J-2 Direct observation of an extreme landfast sea-ice melting event in Lützow-Holm Bay in 2025 triggered by winter breakup and amplified by ice-albedo feedback ○小平翼, 早稲田卓爾, 伊藤優人, 鯛涼太, 岡元大樹, 三上航平 (東大院新領域), 清水大輔 (極地研)
11:20	J-3 Interannual variability of the ice-covered area in Saroma-ko Lagoon derived from Landsat imagery ○野原大我 (北見工大院工), 舘山一孝 (北見工大)
11:40	J-4 Development of artificial ice for reproducing ice bending failure ○小島慎吾, 金野祥久 (工学院大)
12:00	昼食
座長: 金野祥久 (工学院大)	
13:30	J-5 Simulating wave-induced ice fracture: an MPM approach with rotational degrees of freedom -Material point method with plate formulation- ○グリバノフ イーゴリ, 早稲田卓爾 (東大院新領域), Rocky Taylor (Memorial Univ. Newfoundland, Canada)
13:50	J-6 LIGGGHTS analysis of brash ice channel navigation ○大西孝弥, 金野祥久 (工学院大)
14:10	J-7 Development and validation of icebreaking simulation method using LS-DYNA ○高橋大地, 金野祥久 (工学院大)
14:30	J-8 Proposed large-scale in-situ lab testing at HERF: Advancing the characterization and modelling of sea ice deterioration for safe seasonal shipping ○Rocky Taylor (Memorial Univ. Newfoundland, Canada)
14:50	休憩
座長: 木村詞明 (東大院新領域)	
15:00	J-9 Development of an Ice-MMG-Based Digital Twin Mockup for ships navigating in broken ice fields ○金野祥久 (工学院大)
15:20	J-10 SPH-DEM analysis of ice piece clearing around an ice-going ship ★E 附田瑛能, 金野祥久 (工学院大)
15:40	J-11 Numerical analysis of flow fields induced by ship-ice interaction using the overset method ★E 木村海斗, 金野祥久 (工学院大)
16:00	J-12 Interannual variability of wave systems inducing fast ice break-up in Lützow-Holm Bay ★E 鯛涼太(東大院新領域), 早稲田卓爾 (東大院新領域/JAMSTEC), 小平翼 (東大院新領域)
16:20	休憩

	【J:ワークショップ, 氷海の変動把握と新たな利用】	座長:小平翼 (東大院新領域)
16:30	J-13 From experiments to theory: Dissipation-driven spectral downshifting of waves under ice ★E 佐藤公哉 (東大新領域), 早稲田卓爾 (東大院新領域/JAMSTEC), 小平翼 (東大新領域)	
16:50	J-14 Wave attenuation in the marginal ice zone ★P Alberto Alberello, Rhys Ransome and Davide Proment (Univ. East Anglia, UK)	
17:10	J-15 Hydroelastic waves on floating ice plates ○Emilian Parau (Univ. East Anglia, UK), Claudia Tugulan, and Olga Trichtchenko (Univ. Western Ontario, Canada)	
17:30	J-16 Detecting directional wave spectrum in ice and ice floe deformation -Preliminary results from JOIS 2025- ○早稲田卓爾, 佐藤公哉 (東大院新領域), Jean Rabault (Norwegian Meteorological Inst., Norway)	
17:50	総合討論	
19:00	交歓の夕べ 紋別セントラルホテル	

	【K: 海洋物理・化学, 気候】	座長: 館山一孝 (北見工大)
9:00	K-1 Barotropic water exchange between the ice cavity and the open ocean in a non-friction fluid ○ユアン ナン (東北大), 三寺史夫 (北大低温研), 安中さやか (東北大院理)	
9:20	K-2 Triggering mechanism of the 2014 abrupt subsurface warming in the Bering Sea: A numerical study ○周宏偉 (JAMSTEC), 建部洋晶 (JAMSTEC/変動海洋エコシステム高等研究所), 鈴木立郎, 川崎高雄, 小室芳樹(JAMSTEC), 瀬瀬慎也 (JAMSTEC/変動海洋エコシステム高等研究所)	
9:40	K-3 Possible role of Japan Trench topography in the anomalous northward penetration of the Kuroshio extension ○美山透 (JAMSTEC)	
10:00	休憩	
		座長: 周宏偉 (JAMSTEC)
10:10	K-4 Basic research on runoff characteristics in small river basins in Qaanaaq Village ○田中岳 (北大院工学院/北大広域複合災害研究セ) 森太郎, 木下育 (北大院工学院)	
10:30	K-5 Origins and formation process of atmospheric organic aerosol in the southern Sea of Okhotsk during the phytoplankton bloom in spring ★I Zhengyang Fang (北大院環境/北大低温研), 宮崎雄三, 立花英里 (北大低温研), 吉田瞳 (ガリソコタワー), 岩本勉之, 片倉靖次 (紋別市)	
10:50	K-6 Temporal and spatial changes in mineral dust composition deposited on an alpine snowpack ★P 安宅飛明, 杉山涼 (千葉大院理工), 古川登 (千葉大院理), 竹内望 (千葉大環境リセ)	
11:10	K-7 Leveraging InSAR and field observations in revealing long-term post-fire permafrost evolution in north Yukon ○Zetao Cao (北大院理)	
11:30	昼食	
	【L:ワークショップ, 南極氷床とグローバルな気候システムとの相互作用】	
13:00	趣旨説明, 座長: 町田栞志 (北大院環境)	
13:05	L-1 Numerical modeling of ocean circulation and ice shelf melt process in the Weddell Sea ★P 森吉紘己 (北大院環境), 中山佳洋 (ダートマス大), Mathias van Caspel, Markus Janout (アルフレッドウェゲナー極地海洋研究所), Alena Malyarenko (カンタベリー大学)	
13:25	L-2 Tracing sediment provenance to decode Aurora Basin dynamics during past super interglacials ○Javier Maldonado (北大院環境), 関幸 (北大低温研/北大院地球環境), 堀川恵司 (富山大), 入野智久 (北大院地球環境), 板木拓也, 石野沙季 (産総研)	
13:45	L-3 Understanding meltwater dynamics in west Greenland ★P 大谷若葉 (北大院環境), 中山佳洋 (ダートマス大), Michael Wood (Moss Landing Mar. Lab., USA), Ian Fenty (NASA, USA), Claudia Wekerle (Alfred Wegener Inst., Germany), Vigan Mensah (北大低温研)	
14:05	L-4 Role of eddies in the transformation of Dense Shelf water into Antarctic bottom water off Cape Darnley ★P 町田栞志 (北大院環境), 大島慶一郎, Vigan Mensah (北大低温研), 清水大輔 (極地研), 中田和輝 (JAXA), 久賀みづき (水産機構資源研), Alex Fraser (タスマニア大学), 田村岳史 (極地研), 深町康 (北大北極研セ)	
14:25	L-5 Global climate implications through Antarctic ice-ocean interaction during the Last Interglacial ★I 飯塚睦, 板木拓也 (産総研), 山本正伸 (北大院環境), 関幸 (北大低温研)	
14:45	休憩	

	【M:ワークショップ, オホーツク海:地球のクールスポットが生み出す特異な気象・気候】
14:55	趣旨説明, 座長: 本田明治 (新潟大)
15:00	M-1 Reconstruction of climate change in the early 19th century around Hokkaido ○田上善夫 (富山大)
15:20	M-2 Sea ice conditions in the Sea of Okhotsk in the 2024/2025 winter season ○小室光仙, 杉本悟史, 浜田啓次, 赤坂有史 (気象庁)
15:40	M-3 Relationship between sea ice variability in the southern Sea of Okhotsk and the East Sakhalin Current ○澤悠夏 (筑波大理生命院), 黒田寛 (北大低温研), 中野渡拓也 (水産機構・資源研), 植田宏昭 (筑波大生命環境)
16:00	M-4 Distribution tendencies of Japan-Sea Polar-Airmass Convergence Zone (JPCZ) and characteristics of the atmospheric field ★P 高橋聖夢 (新潟大院自然), 本田明治, 高橋直也 (新潟大理)
16:20	M-5 Rapid surface pressure drops in wintertime Meso-β-Scale disturbances using high-frequency observations ★P 内堀可廉 (新潟大院自然), 本田明治, 高橋直也 (新潟大理)
16:40	休憩
16:50	M-6 Inertia-gravity waves around a cutoff low observed over the north Pacific off the Tohoku in the summer of 2025 ★P 中尾優心 (新潟大理), 小川史明 (三重大生物資源), 春日悟 (三重大生物資源/北大院地球環境), 本田明治 (新潟大理)
17:10	M-7 Midlatitude marine warming and summer atmospheric responses during 2023-2025: Implications for sustained heat extremes in East Asia ○植田宏昭 (筑波大院生命環境), 倉持将也 (気象庁), 森本啓介, 嶋原侑暉, 塚田歩夢 (筑波大理生命院), 岡島悟, 井上知栄 (筑波大院生命環境), 前田修平 (気象庁)
17:30	M-8 Influence of the Okhotsk Sea on the wintertime snowfall in the Japan Sea coast ○本田明治 (新潟大), 立花義裕 (三重大), 豊田隆寛 (気象研), 植田宏昭 (筑波大院生命環境), 岩本勉之 (紋別市)
19:00	交歓の夕べ 紋別セントルホテル

	【N:ワークショップ, 寒冷域におけるプランクトン生態学:分子から生態系まで】
9:00	趣旨説明, 座長, 平井惇也 (東大大気海洋研)
9:05	N-1 Physiological responses of growth and photosynthesis of the Antarctic cryptophyte <i>Geminigera cryophila</i> to changes in temperature, light, and salinity ★B 嶋田蓮 (北大院環境), 鈴木光次 (北大院地球環境)
9:25	N-2 Contrasting toxicity profiles and population genetics reveal a north-south divide in <i>Dinophysis fortii</i> ○長井敏 (水産機構技術研), 内田肇 (水研機構), 宮園章, 栗林貴範 (道総研中央水試), 秦安史 (道総研本部), 夏池真史 (道総研函館水試), 高坂祐樹 (青森産技水総研), 宮原一隆 (兵庫県水技セ), 山本佳奈 (長崎水試), 船越裕紀 (京都海セ), Sirje Sildever (タリン工科大), Wai Mun Lum (三重大), 中山奈津子, 松嶋良次, (水研機構), 鈴木敏之 (北里大), 高田健司, 安田仁奈 (東大), 石川直子, 赫英紅, 陶山佳久 (東北大)
9:45	N-3 Satellite remote sensing for harmful algae monitoring in Hokkaido waters ○平田貴文 (北大北極セ), 有馬大地 (道総研), 東典子, 高橋潤 (東農大生物産業), 大塚夏彦 (北大北極セ), 岩本勉之, 片倉靖次 (紋別市), 吉瀬 (新井) 祐子 (東京農業大生物資源ゲノム), 志波優 (東京農業大生物資源ゲノム/東京農業大生命科学)
10:05	N-4 Long-term (from 1997 to 2025) changes of zooplankton community based on functional traits in the Mombetsu Port, southern Okhotsk Sea ★B 金東佑 (北大院水産), 松野孝平 (北大院水産/北大北方セ/北大北極セ), 片倉靖次, 濱岡莊司, 岩本勉之 (紋別市), 山口篤 (北大水産/北大北極セ)
10:25	休憩
10:35	N-5 Seasonal change of jellyfish species composition and abundance between spring and fall 2025 around the Okhotsk Tower, Mombetsu, Hokkaido ★B 向井翔太 (東海大), 片倉靖次, 岩本勉之 (紋別市), 伊佐田智規 (北大北方セ), 野坂裕一 (東海大)

	【N:ワークショップ, 寒冷域におけるプランクトン生態学: 分子から生態系まで】 座長, 平井 惇也 (東大大気海洋研)
10:55	N-6 Effects of ocean acidification on larval shell development in scallop ○清水啓介, 木元克典, 脇田昌英 (JAMSTEC)
11:15	N-7 Molecular-based analyses revealing zooplankton diversity during sea ice period in the Okhotsk Sea ○平井惇也 (東大大気海洋研), 山口 篤 (北大水産), 片倉靖次 (紋別市)
11:35	N-8 Population structure of the copepod <i>Calanus glacialis</i> in the high-latitude regions of the Northern Hemisphere ☆B 柚村七々実 (東大大気海洋研), 片倉靖次 (紋別市), 松野孝平 (北大北方セ), 平井惇也 (東大大気海洋研)
11:55	昼食
	【O:ワークショップ, 北海道の水産資源管理および栽培漁業に関する研究の現状と課題】 趣旨説明, 座長: 佐藤敦一 (道栽培水試)
13:30	
13:35	O-1 Current situation and issues of studies on stock management and stock enhancement in Hokkaido, Japan ○佐藤敦一 (道栽培水試)
13:55	O-2 Current status and challenges in research on whelk resource management in the Pacific coast of Hokkaido, Japan ○高橋昂大, 栗原康裕 (道栽培水試)
14:15	O-3 High water temperature tolerance of barfin flounder <i>Verasper moseri</i> juvenile ○三坂尚行, 松田泰平 (道栽培水試)
14:35	O-4 Species composition of estuarine fish assemblages in Hidaka Bay ☆B 安宅淳樹, 高橋昂大, 高原英生, 栗原康裕, 坂上嶺 (道栽培水試)
14:55	休憩
	【P:ワークショップ, 環境と社会の変化に应答する海鳥・海棲哺乳類】 趣旨説明, 座長: 櫻木雄太 (京大野生動物研)
15:05	
15:10	P-1 Camera and microphone monitoring of key sea-birds in Greenland (Little auks) ○エヴゲニ ポドリスキ (北大北極セ), J. B. Thiebot (北大院水産), 小川萌日香 (極地研/北大北極セ), L. Paker (Univ. Bremen, Germany), 庭野匡思 (気象研), 日下稜 (北方民族博物館), 油島明日香 (北大院水産), K. L. Johansen, A. Mosbech (Aarhus Univ., Denmark), 杉山慎 (北大北極セ/北大低温研)
15:30	P-2 Observations of narwhal sounds from boat-based hydroacoustic recordings in northwestern Greenland: comparison with passive acoustic monitoring ☆B 金紗羅 (京大野生動物研セ), ポドリスキ エヴゲニ (北大北極セ), 小川萌日香 (極地研), 櫻木雄太, 三谷曜子 (京大野生動物研セ)
15:50	P-3 From the sky: Drone-based behavioral observation of Arctic cetaceans ○小川萌日香 (極地研/北大北極セ), Mamarut Kristiansen (Qaanaaq, Greenland), ポドリスキ エヴゲニ (北大北極セ)
16:10	P-4 Seasonal relationships between marine environmental dynamics and behavioral responses of ringed seals at tidewater glacier fronts ○櫻木雄太 (京大野生動物研セ), Aqqalu Rosing-Asvid (グリーンランド天然資源研究所), Yefan Wang (エディンバラ大学), 杉山慎 (北大低温研/北大北極セ), 三谷曜子 (京大野生動物研セ)
16:30	休憩
16:40	P-5 Estimation of spatial distribution pattern and its seasonal change of Baird's beaked whales in the waters around Japan based on a species distribution model ☆B 古巻史穂, 佐々木裕子, 前田ひかり, 南川真吾, 金治佑 (水産研究・教育機構)
17:00	P-6 Extinction risk assessment based on whole-genome analyses of spotted seals (<i>Phoca largha</i>) and ringed seals (<i>Pusa hispida</i>) rescued at the Okhotsk Tokkari Center ☆B 鈴木百夏, 佐藤悠 (京大野生動物研セ), 渡辺美玖 (オホーツクとつかりセンター), 村山美穂, 三谷曜子 (京大野生動物研セ)
17:20	P-7 Uplifting equity in science: Sea Otter impacts on traditional foods in Alaska ○Sonia Ibarra (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
17:40	P-8 A Glimpse of Greenland's food through the eyes of researchers ○三谷曜子, 櫻木雄太, 金紗羅 (京大野生動物研セ), 矢澤宏太郎 (北大院環境), 富安信, 長谷川浩平, Jean-Baptiste Thiebot (北大院水産), 植竹淳 (北大北方セ), 日下稜 (北方民族博物館), 林直孝 (カルガリー大学), 赤嶺淳 (一橋大院社会)
19:00	交歓のタベ

	【Q:ワークショップ, 北極・南極科学における若手人材育成事業】 北極域研究強化プロジェクト ArCS-3 では、次世代研究者育成のため、若手海外派遣、野外実習、実習航海、特別講義等の事業を行っています。このセッションでは、これらに参加した若手研究者や大学院生、同じようなプログラムを実施する研究者、さらには広く極域科学教育に関わる皆さんに参加いただき次世代育成の取り組みについて紹介します。
9:00	趣旨説明, 座長, 杉山 慎 (北大北極セ)
9:05	Q-1 ArCSIIIの人材育成を目的とした事業の紹介 ○小川萌日香 (極地研)
9:15	Q-2 北海道大学における若手人材育成事業 -ArCS III との連携- ○杉山 慎 (北大北極セ)
9:25	Q-3 洋上キャンパスおしよろ丸で行く北極海 -ArCSII&III公開実習を中心に ○大西富士夫 (北大北極セ)
9:35	Q-4 スイスアルプス氷河におけるフィールド調査と極域研究との関連性 ○杉田友華 (北大院環境), 安宅飛明 (千葉大理)
9:45	Q-5 グリーンランド北西部におけるダンプサイトに起因するムール貝の汚染状況調査の概要 ○山野将輝 (北大院水) グリーンランド北西部における海棲哺乳類調査 ○金紗羅 (京都大学) Leveraging InSAR and field observations in revealing long-term post-fire permafrost evolution in North Yukon ○Zetao Cao (北大院理)
10:00	Q-6 笹川平和財団での北極海洋人材育成の取り組み ○渡邊敦 (笹川平和財団海洋政策研究所), Gunnar Rekvig (Arctic Univ. Norway, Norway/笹川平和財団)
10:15	Q-7 現在に至る過程と今後のキャリアパスについて ○和賀久朋 (アラスカ大学フェアバンクス校/極地研)
10:25	意見交換、若手当事者の提言 ○小川萌日香 (極地研), 吉田 淳 (極地研)
10:00	休憩
11:00	【学術分科会閉会式】 司会: 片倉靖次 (紋別市) 講 評 青田昌秋賞表彰式 閉会のことば 大塚夏彦 (北方圏国際シンポジウム実行委員会)
12:00	昼食
14:00 16:00	【市民公開講座: 森から海の連環を考えるシンポジウム】 最先端林業の現状～カラマツに圧密技術を応用した高硬度材料の開発～ 挨拶: 中村雅俊 (紋別市) <第 1 部 講演会> I. 圧密技術の背景と目的 佐々木貴信 (北大院農) II. カラマツ圧密材の製造方法と基礎物性 古田直之 (道総研林産試験場) III. カラマツ圧密材の家具接合部の強度試験 塚本優佳 (北大院農) IV. カラマツ圧密材を用いた椅子開発と商品化 山上裕一郎 ((株)山上木工)
	<第2部 パネルディスカッション: カラマツに圧密技術を応用した高硬度材料の開発> パネリスト 佐々木貴信 (北大院農) 古田直之 (道総研林産試験場) 塚本優佳 (北大院農) 山上裕一郎 ((株)山上木工)

2026年2月18日(水)

紋別市立博物館

	【市民公開講座:オホーツク・テロワール 2026 in 紋別】 司会進行:長南進一(オホーツク・テロワール) ～オホーツク文化が残したメッセージ～ オホーツク文化の原点とオホーツク・ツーリズムの未来と可能性を探る 第3弾
13:30	主催者挨拶:大黒宏(オホーツク・テロワール)
13:35	第1部 各分野の実践報告の中から、オホーツク文化の発信のヒントを探る
15:35	I. 遺跡を活かした観光 田才雅彦(文化財サポート) II. 縄文アートを旅しようを出版して 清水恭子(求龍堂出版)-Zoom 参加 III. オホーツク文化を巡る旅の可能性について 宮下麻美(北大院観光) IV. 道東の未来について 中西拓郎(ドット道東)
15:45	第2部 パネルディスカッション
17:20	

展示

文化会館 3階ロビー

	【Extra】 Ex-1 黒潮大蛇行:2017-2025 中陣隆夫(東海大) Ex-2 博愛丸事件から百年、小説・蟹工船～蟹缶詰の歴史と紋別 山田雅也(北海道文化財保護協会)
--	--

2月18日(水)

紋別市民会館 大ホール

13:10	【子ども流氷シンポジウム】 司会進行:高橋甫(紋別市)
14:30	I. オホーツク海の流氷と地球環境 大塚夏彦(流氷科学センター) II. 北極の暮らし パトン リチャード, ノーブル ジェニーバ(カナダ キキクタニ イヌイト協会) 流氷クイズ大会

2月14日(土)～3月22日(日)

オホーツク流氷科学センタ

	協賛行事 「写真展オホーツク物語 7-大切な時間-」 北海道内外の皆さんへオホーツクの魅力を発信することを目的とし、オホーツク地域ならではの自然の景色や動植物を個性豊かな写真で紹介します。
--	---

The 40th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans

English



An old solitary tree standing on a snowy hill

15-18 February 2026

**Mombetsu Arts & Culture Center, Mombetsu Municipal Museum,
Mombetsu Machinaka Art Museum, Mombetsu Citizens' Public Hall**

**Okhotsk Sea and Polar Oceans
Research Association
(OSPORA)**

PURPOSE OF SYMPOSIUM

Sea ice, which covers about 10% of the world's oceans, plays a major role in the Earth's thermal balance and generates the driving forces of atmospheric and oceanic general circulation. The Sea of Okhotsk is the world's lowest-latitude sea to freeze and marks the southernmost limit of drift ice. Every winter, 60–70% of the Sea of Okhotsk becomes covered with drift ice, bringing both benefits and challenges to our daily lives. In recent years, the impacts of global warming have led to a rapid decline in Arctic sea ice extent, causing a variety of environmental problems. At the same time, the "Arctic Sea Route" linking the Pacific Ocean and Europe has attracted increasing attention, though the international situation surrounding it remains delicate.

Sea ice and drift ice are deeply connected not only to the global environment but also to productive activities such as fisheries, agriculture, and industry. This symposium addresses a wide range of topics, from the latest sea ice research to global warming, environmental issues, marine organisms, the Northern Sea Route, polar regions, and various issues concerning the Okhotsk region.

The International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans has been held annually in Mombetsu City since its first meeting in 1986. Although the symposium was canceled in 2021 due to the spread of COVID-19, the academic sessions were held online in 2022 and in a hybrid format in 2023. From 2024 onward, the academic sessions have returned to an in-person format, and public lectures, the Children's Drift Ice Symposium, and the commemorative reception have been resumed.

This year's International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans in 2026 marks the milestone 40th meeting, at which many research presentations will be given on a variety of themes. We hope that the symposium will provide a fruitful forum for all participants to engage in meaningful discussions and deepen exchanges. We sincerely hope you enjoy the symposium.

Organized by

City of Mombetsu
Symposium Committee

Organized and Sponsored by

Okhotsk Sea and Polar Oceans Research Association (OSPORA)
Arctic Research Center, Hokkaido University (ARC)
National Institute of Polar Research (NIPR)
Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC)
Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University (ILTS)
Kitami Institute of Technology (KIT)
Tokai University, Sapporo Campus
Tokyo University of Agriculture, Faculty of Bioindustry
Tokyo University of Marine Science and Technology
Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University
Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University
Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo (AORI)
Hokkaido National Fisheries Research Institute
Japan Consortium for Arctic Environmental Research (JCAR)

International Advisory Committee

- Hajo Eicken, University of Alaska, Fairbanks, USA
- Hiroyuki Enomoto, National Institute of Polar Research, Japan
- Makoto Hatakeyama, Abashiri Fisheries Research Institute, Hokkaido Research Organization
- Katsushi Iwamoto, City of Mombetsu, Japan
- Koh Izumiyama, Hokkaido University, Japan
- Seiji Katakura, City of Mombetsu, Japan
- Hiromitsu Kitagawa, Ocean Policy Research Foundation, Japan
- Yutaka Michida, The University of Tokyo, Japan
- Ferdenant A. Mkrtchyan, Institute of Radioengineering & Electronics, Russia
- Satoshi Nagai, Japan Fisheries Research and Education Agency, Yokohama Branch, Japan
- Jun Nishioka, Hokkaido University, Japan
- Tsuneo Nishiyama, Prof. Emer., Tokai University, Japan
- Natsuhiko Otsuka, Okhotsk Sea Ice Museum of Hokkaido, Japan
- Toshihiro Ozeki, Hokkaido University of Education, Sapporo Campus, Japan
- Shin Sugiyama, Hokkaido University, Japan
- Satoru Taguchi, National Institute of Polar Research, Japan
- Shuhei Takahashi, Prof. Emer., Kitami Institute of Technology, Japan
- Kazutaka Tateyama, Kitami Institute of Technology, Japan
- Hajime Yamaguchi, National Institute of Polar Research, Japan

(Alphabetical order)

14:30-16:40 ◆ **Opening Ceremony**

【Main Hall】

■ **Welcome Address**

Akinori Yamazaki	Mayor, City of Mombetsu
Natsuhiko Otsuka	Chair, The Symposium Committee
Hiroaki Nomura	Director, Okhotsk General Subprefectural Bureau

■ **Introduction of Overseas Participants**

《Canada》

Dr. Kumiko Azetsu-Scott	Bedford Institute of Oceanography
Dr. Aileen Aseron Espiritu	UiT, The Arctic University of Norway
Ms. Christine Guilbault	Embassy of Canada
Ms. Theresa De Haan	Embassy of Canada
Ms. Geneva Nobles	Qikiqtani Inuit Association
Mr. Richard Paton	Qikiqtani Inuit Association
Prof. Rocky Taylor	Memorial University of Newfoundland

《Finland》

Prof. Kamrul Hossain	University of Lapland
----------------------	-----------------------

《Italy》

Dr. Alberto Alberello	University of East Anglia
Mr. Lorenzo Ercolani	Hofdi Cottages
Ms. Sara Fusco	University of Lapland & University of Akureyri

《Norway》

Prof. Geir Hønneland	Fridtjof Nansen Institute
----------------------	---------------------------

《Taiwan》

Dr. Yu-Chiao Liang	National Taiwan University
--------------------	----------------------------

《United Kingdom》

Prof. Emilian Parau	University of East Anglia
---------------------	---------------------------

《United States of America》

Mr. Billy Adams	North Slope Borough
Prof. Courtney Carothers	University of Alaska Fairbanks
Ms. Roberta Tuurraq Glenn	University of Alaska Fairbanks
Dr. Sonia Ibarra	University of Alaska Fairbanks
Mr. Nick Jacuk	University of Alaska Fairbanks
Dr. Emily Lescak	University of Alaska Fairbanks

■ **Greetings**

Prof. Kamrul Hossain	University of Lapland, Finland
----------------------	--------------------------------

■ **Attraction** Dance by Mombetsu Otani Kindergarten

Traditional Japanese Dance, Nishikawa Ryu Nihon Buyo

■ **Special Lecture**

(in Japanese language only)

- I . 40th anniversary of the International Symposium: Legacy and future of Okhotsk and Polar Oceans studies Shuhei Takahashi (Okhotsk Sea Ice Museum)
- II . Eat Well and Enjoy Life Hiroyuki Morisaki (Actor, TEAM NACS)

18:00-19:30 ◆ **Memorial Reception (Banquet)**

【3F】

Monday 16 February

Hall, 1F, Mombetsu Arts & Culture Center

9:00-9:10 **Opening Address** Natsuhiko Otsuka (Chair of the Symposium Committee)
Introduction of the Aota Masaaki Award

9:10-11:15 **Keynote Address, Session A:**

9:10 **A-1** Progress in Northern Sea Route research over the past 40 years and its current status
Eiji Sakai (Sasakawa Peace Foundation)

9:40 **A-2** Canada's Arctic foreign policy
Christine Guilbault, and Theresa De Haan (Embassy of Canada to Japan)

10:05 **A-3** Inuit-led conservation in the Canadian Arctic
Richard Paton, and Geneva Nobles (Mar. Wildlife Stewardship, Qikiqtani Inuit Assoc., Canada)

10:40 **A-4** 40th anniversary of the International Symposium: Legacy and future of Okhotsk and Polar Oceans studies
Shuhei Takahashi (Okhotsk Sea Ice Museum), and Mitsuo Fukuchi (NIPR)

13:30-15:30 **Public Program : Okhotsk~The Sea of Our Homeland** *(in Japanese language only)*

I. Technologies for quality preservation and refrigeration of fishes
Keisuke Moriya (Abashiri Fish. Res. Inst.)

II. Recent status of salmon stocks on the Sea of Okhotsk coast and efforts toward their recovery
Yasuyuki Miyakoshi (Kitami Salmon Enhancement Program Assoc.)

15:40-18:10 **Scientific Session B : Marine Biology and Fisheries in the Ice-Covered Waters**

Special Conference Room, 3F, Mombetsu Arts & Culture Center

13:00-18:00 **Workshop C : Next-Generation Observations and Modeling for Integrated Approaches to Polar Climate Change**

Meeting Room, 3F, Arts & Culture Center

13:00-14:00 **Scientific Session D : Polar Engineering**

14:10-17:20 **Scientific Session E : Life in Cold Region/Interdisciplinary Area**

Mombetsu Municipal Museum

13:00-14:20 **Workshop F : Exploring the Potential of AI and Machine Learning for Sea Ice Research**

《Online Session》

Machinaka Art Museum

13:00-17:00 **Scientific Session G : Online Session**

IARC and Sasakawa Peace Foundation Session
Scientific Session

Tuesday 17 February

Hall, 1F, Mombetsu Arts & Culture Center

9:00-15:30 **Workshop H : Arctic Governance at a Crossroads:
Understanding Change and Exploring the Future**

16:00-18:00 **Public Program : How Do We Act at Enhancing Local Disaster Resilience ?**
(in Japanese language only)

Considering the Improvement of Disaster Response Capability in the Okhotsk Region
-Learning from the Noto Peninsula Earthquake-

Lecture: I. New disaster prevention information provided from 2026
Akiko Miura (Abashiri Local Meteorological Observatory, Japan Meteorological Agcy.)
II. Efforts to improve disaster awareness in Hokkaido
Akio Yamaguchi (Hokkaido Okhotsk General Promotion Bu.)

Panel Discussion:

--Learning about Self-Help and Mutual Assistance Initiatives such as Disaster Preparedness Education, Disaster Volunteer Activities, and Evacuation Shelter Management-

Special Conference Room, 3F, Mombetsu Arts & Culture Center

9:00-10:25 **Workshop I : Arctic Policy through Science and Human Activity**

10:35-18:00 **Workshop J : The Changing Ice-Covered Ocean and New Utilization**

Meeting Room, 3F, Arts & Culture Center

9:00-11:30 **Scientific Session K : Physical and Chemical Oceanography/Climate**

13:00-14:45 **Workshop L : Interactions between the Antarctic Ice Sheet and
the Global Climate System**

14:55-17:50 **Workshop M : The Okhotsk Sea: Unique Weather and Climate
Generated by the Earth's Cool Spot**

Mombetsu Municipal Museum

9:00-11:55 **Workshop N : Plankton Ecology in Cold Regions:
From Molecules to Ecosystems**

13:30-14:55 **Workshop O : Current Situation and Issues of Studies on Stock
Management and Stock Enhancement in Hokkaido, Japan**

15:05-18:00 **Workshop P : Seabirds and Marine Mammals in Response to
Environmental and Social Change**

Mombetsu Central Hotel

19:00~20:30 **Dinner Party for Friendship between Scientists & Volunteers**

Wednesday 18 February

Hall, 1F, Mombetsu Arts & Culture Center

(in Japanese language only)

9:00-10:50 **Workshop Q : Career Development for Young Researchers in Arctic and Antarctic Research**

11:00-11:30 **Closing Session**

- A Review of the Symposium,
- Prize-awarding Ceremony of the Aota Masaaki Award
- Closing Remarks, Natsuhiko Otsuka (Chair, The Symposium Committee)

14:00-16:00 **Public Program : Symposium on the Forest-Ocean Linkage**

Current State of Cutting-Edge Forestry

(in Japanese language only)

-Development of High-Hardness Materials Using Densification Technology Applied to Larch-

Lecture I. Background and objectives of the densification technology

Takanobu Sasaki (Hokkaido Univ.)

II. Manufacturing methods and fundamental properties of densified larch wood

Naoyuki Furuta (Forest Products Res. Inst.)

III. Strength testing of furniture joints made from densified larch wood

Yuka Tsukamoto (Hokkaido Univ.)

IV. Chair development and commercialization using densified larch wood

Yuichiro Yamagami (Yamagami Mokko Co., Ltd.)

Pannel Discussion

Mombetsu Municipal Museum

13:30-17:20 **Public Program : The Okhotsk Terroir Symposium 2026 in Mombetsu**

(in Japanese language only)

-The Message Left by the Okhotsk Culture: Exploring the Origins of Okhotsk Culture and the Future and Potential of Okhotsk Tourism: Part 3-

Part 1 Exploring Ideas for Sharing Okhotsk with the World through Practical Reports from Various Fields

Lecture: I. Tourism utilizing archaeological sites Masahiko Tasai (Cultural Heritage Support)

II. On publishing travel with Jomon art Kyoko Shimizu (Kyuryudo Publishing)

III. The potential of a journey exploring Okhotsk culture Aasami Miyashita (Hokkaido Univ.)

IV. On the future of eastern Hokkaido Takuro Nakanishi (Dot Eastern Hokkaido)

Part 2 Pannel Discussion

Monday 16 - Wednesday 18 February

Lobby, 3F, Mombetsu Arts & Culture Center

Exhibition

Ex-1 End of the Kuroshio large meander in 2017-2025

Takao Nakajin (Tokai Univ.)

Ex-2 Centennial of the Hakuai Maru Incident, the Crab Cannery Ship Novel-The history of canned crab and Mombetsu

Masaya Yamada (Hokkaido Assoc. Protection of Cultural Property)

Mombetsu Citizens' Public Hall

13:10-14:30 **Symposium on Sea Ice for Children**

(in Japanese language only)

I. Sea ice, the Sea of Okhotsk, and earth's environment
Natsuhiko Otsuka (Okhotsk Sea Ice Museum)

II. Life in the Arctic

Richard Paton, and Geneva Noble (Mar. Wildlife Stewardship, Qikiqtani Inuit Assoc., Canada)

Drift Ice Quiz

Monday 16 - Wednesday 18 February

Lobby, 1F, Mombetsu Arts & Culture Center

Observation Equipment Technology Exhibition



EKO INSTRUMENTS Co., Ltd.

Pyranometers, Sensors & Instruments

For solar, renewable energy, meteorological,
and thermal analysis applications

1-21-8 Hatagaya, Shibuya, Tokyo 151-0072 Japan

Phone: +81-3-3469-6714 Fax: +81-3-3469-6719

www.eko.co.jp

EKO INSTRUMENTS CO., LTD. <https://eko.co.jp/>

Saturday 14 February - Sunday 22 March

Okhotsk Sea Ice Museum

Sponsorship Event: Okhotsk Story 7 Photo Exhibition - Precious Moments

With the aim of sharing the appeal of the Okhotsk region with people in Hokkaido and beyond, this exhibition presents the region's distinctive natural landscapes, flora, and fauna through a collection of uniquely expressive photographs.

9:00	【Opening Session】 Chair, Seiji Katakura (Mombetsu City) Opening Address: Natsuhiko Otsuka (Chair of the Symposium Committee) Introduction of the Aota Masaaki Award
9:10	【A: Keynote Address】 Chair, Natsuhiko Otsuka (Okhotsk Sea Ice Museum) A-1 Progress in Northern Sea Route research over the past 40 years and its current status ○Eiji Sakai (Sasakawa Peace Foundation)
9:40	A-2 Canada's Arctic foreign policy ○Christine Guilbault, and Theresa De Haan (Embassy of Canada to Japan)
10:05	A-3 Inuit-led conservation in the Canadian Arctic ○Richard Paton, and Geneva Nobles (Mar. Wildlife Stewardship, Qikiqtani Inuit Assoc., Canada)
10:30	Break
10:40	A-4 40th anniversary of the International Symposium: Legacy and future of Okhotsk and Polar Oceans studies ○Shuhei Takahashi (Okhotsk Sea Ice Museum), and Mitsuo Fukuchi (NIPR)
11:15	Lunch
13:30 15:30	【Public Program, Okhotsk~The Sea of Our Homeland】 <i>(in Japanese language only)</i> I. Technologies for quality preservation and refrigeration of fishes Keisuke Moriya (Abashiri Fish. Res. Inst.) II. Recent status of salmon stocks on the Sea of Okhotsk coast and efforts toward their recovery Yasuyuki Miyakoshi (Kitami Salmon Enhancement Program Assoc.)
15:30	Break
15:40	【B: Marine Biology and Fisheries in the Ice-Covered Waters】 Chair, Irene D. Alabia (Hokkaido Univ.) B-1 Biological and ecological characteristics of Arctic charr caught by artisanal gillnet fishing in the coastal areas of northwest Greenland ★B Shoma Tsujimura, Makoto Tomiyasu, Masaki Yamano, Yasuzumi Fujimori, Shin Sugiyama (Hokkaido Univ.), and Yoko Mitani (Kyoto Univ.)
16:00	B-2 Pollution of blue mussels due to dumpsite in Qaanaaq in northwestern Greenland ★B Masaki Yamano, Tatsuya Fukazawa, Yasumasa Tojo, Makoto Tomiyasu, Tamami Ikeuchi, Shoma Tsujimura, Yasuzumi Fujimori, Shin Sugiyama (Hokkaido Univ.), and Yoko Mitani (Kyoto Univ.)
16:20	B-3 Use of the Okhotsk Tower as an Artificial Submerged Structure by <i>Sebastes taczanowskii</i> ○Yukinori Nanake (Ctrl. Res. Inst. Electric Power Indus.), Makoto Tomiyasu (Hokkaido Univ.), Yuta Urabe (Okhotsk Garinko & Tower), and Seiji Katakura (Mombetsu City)
16:40	B-4 Live fish transportation of cresthead flounder <i>Pseudopleuronectes schrenki</i> and threestripe rockfish <i>Sebastes trivittatus</i> from Mombetsu in the Sea of Okhotsk coast ○Seiji Katakura (Mombetsu City), Toshiyuki Ito (Ito Fishing Tackle Shop), Tatsuro Harumi (Asahikawa Medical Univ.), and Hajime Matsubara (Kanazawa Univ.)
17:00	Break
17:10	B-5 Conceptualizing a Pan-Pacific salmon knowledge portal ○Emily Lescak (Univ. Alaska Fairbanks, USA), Matthew Jones, Maggie Klope (Univ. California Santa Barbara, USA), William Manley (Univ. Colorado, USA), Craig Tweedie (Univ. Texas El Paso, USA), Shirly Stephen (Univ. California Santa Barbara, USA), Koh Hasegawa, Yuki Iino (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), Irene Alabia (Hokkaido Univ.), and Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
17:30	B-6 Habitat estimation in salmon driftnet fishing grounds by integrating satellite ocean color data into fisheries observations ★B Yuki Iino, and Shunpei Sato (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.)
17:50	B-7 Recent climate-induced marine habitat shifts drive Japanese chum salmon decline ○Irene D. Alabia (Hokkaido Univ./Univ. Alaska Fairbanks, UAS), Sei-Ichi Saitoh (Hokkaido Univ./Digital Hokkaido Community/Green & Life Innovation, Inc.), Jorge Garcia Molinos, Takafumi Hirata (Hokkaido Univ.), Yasuyuki Miyakoshi (Kitami Salmon Enhancement Program Assoc.), Fumihiro Takahashi (Green & Life Innovation, Inc.), Hiromichi Ueno, and Masahide Kaeriyama (Hokkaido Univ.)

	【C: Workshop, Next-Generation Observations and Modeling for Integrated Approaches to Polar Climate Change】	
13:00	Introduction and Chair, Jun Inoue (NIPR)	
13:05	C-1	Investigating the impacts of Arctic sea ice loss on large-scale atmospheric circulation using physical and hybrid climate models ○Yu-Chiao Liang (Ntl. Taiwan Univ., Taiwan), Nicholas J. Lutsko (Scripps Inst. Oceanography, USA), and Young-Oh Kwon (Woods Hole Oceanographic Inst., USA)
13:20	C-2	Rebuilding Arctic atmospheric observing capacity: A scalable pathway from enhanced campaigns to community-led monitoring ○Jun Inoue (NIPR), and Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
13:35	C-3	Predictability of sensor icing caused by supercooled fog in polar ocean operations -Part 2: Evaluating inversion layers ○Souichiro Sueyoshi (Nippon Mar. Enterprises Ltd.), and Fumikazu Taketani (JAMSTEC)
13:50	C-4	Validation and analysis of cloud microphysical properties using the EarthCARE satellite in the Arctic ○Kaori Kono, Hajime Okamoto, and Kaori Sato (Kyushu Univ.)
14:05	C-5	Arctic weather patterns in summer and their representation in a large ensemble climate simulation ○Akio Yamagami (Ctr. Environmental Sci. Saitama), and Takahiro Toyoda (Meteorological Res. Inst.)
14:20	Break	
	Chair, Jun Ono (NIPR)	
14:30	C-6	Ocean acidification in Arctic gateways: Insights from the Canadian Arctic ○Kumiko Azetsu-Scott (Bedford Inst. Oceanography Canada, Canada), and Craig Lee (Univ. Washington, USA)
14:45	C-7	Vortex merger and instability ★P Mio Hosako, and Koji Shimada (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
15:00	C-8	Hydrographic changes in the Arctic Ocean ○Koji Shimada, Yumi Takabayashi, Kohei Hayakawa, and Rin Harada (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
15:15	C-9	Revealing the structure of the oceanic Beaufort Gyre using Arctic surface current datasets ○Rin Harada, and Koji Shimada (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
15:30	C-10	Re-examination of the Bering Strait throughflow: The importance of non-geostrophic components in the sea ice-ocean boundary layer ★P Kohei Hayakawa, and Koji Shimada (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
15:45	Break	
	Chair, Hisatomo Waga (Univ. Alaska Fairbanks, USA/NIPR)	
15:55	C-11	Factors of sea ice variation in the Barents and Kara seas during the entire winter ★P Kanata Oishi, and Koji Shimada (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
16:10	C-12	Toward seasonal-to-interannual Arctic sea-ice forecasts using a climate model ○Jun Ono (NIPR), Yoshiki Komuro, Hiroaki Tatebe (JAMSTEC), Noriaki Kimura (Univ. Tokyo) and, Hironori Yabuki (NIPR)
16:25	C-13	Origin and fate of sediment-laden sea ice: contribution to material transport ★P Hisatomo Waga (Univ. Alaska Fairbanks, USA/NIPR), Mizuki Kuga (Hokkaido Univ./Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), Noriaki Kimura (Univ. Tokyo), Kazuki Nakata (JAXA), and Kay I. Ohshima (Hokkaido Univ.)
16:40	C-14	Size distribution of particulate matter inside sea ice in Lützw-Holm Bay ○Masato Ito (Univ. Tokyo), Takeshi Tamura (NIPR/SOKENDAI), Keigo D. Takahashi (Hokkaido Univ.), Atsushi Yoshida (NIPR), Kazutaka Tateyama (Kitami Inst. Tech.), Takuhei Shiozaki (Univ. Tokyo), Takuya Sato (Univ. Tokyo), Shigeru Aoki, Kay I. Ohshima, Sumito Matoba (Hokkaido Univ.), Satoshi Imura (NIPR/SOKENDAI), Yutaka W. Watanabe (Hokkaido Univ.), Shuki Ushio (NIPR), Hiroto Kajita (Hirosaki Univ.), Ryo Matsuda (Soka Univ.), Ryosuke Makabe (NIPR/SOKENDAI), and Kohei Mizobata (Tokyo Univ. Mar. Sci. Tech.)
16:55	Break	

Monday 16 Feb. 2026

Special Conference Room, 3F, Arts & Culture Center

	【C: Workshop, Next-Generation Observations and Modeling for Integrated Approaches to Polar Climate Change】 Chair, Atsushi Yoshida (NIPR)
17:05	C-15 Shipborne measurements of mineral dust and black carbon aerosols over the Southern Ocean in the austral summer ★P Atsushi Yoshida (NIPR), Yutaka Tobo (NIPR/SOKENDAI), Hiroshi Kobayashi (Univ. Yamanashi), Kouji Adachi (Meteorological Res. Inst.), Nobuhiro Moteki (Tokyo Metropolitan Univ.), and Jun Inoue (NIPR/SOKENDAI)
17:20	C-16 Reproducibility of surface downward radiation in the regional climate model and reanalysis at Dome Fuji, Antarctica ★P Kyohei Yamada (NIPR), and Jun Inoue (NIPR/SOKENDAI)
17:35	C-17 Three-dimensional atmospheric rivers contribute to Antarctic precipitation ★P Kazu Takahashi (SOKENDAI), Jun Inoue, Kazutoshi Sato, Naohiko Hirasawa (SOKENDAI/NIPR), and Kyohei Yamada (NIPR)
17:50	Discussion

Monday 16 Feb. 2026

Meeting Room, 3F, Arts & Culture Center

	【D: Polar Engineering】 Chair, Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
13:00	D-1 Framework and trial calculations of navigability assessment of ships in ice waters, 2nd Report: Simple assessment method using continuous icebreaking capability ○Shotaro Uto (Hokkaido Univ.), and Natsuhiko Otsuka (Hokkaido Univ./Okhotsk Sea Ice Museum)
13:20	D-2 Comparison of ice resistance in brash ice channel between numerical simulation and ice tank tests ○Keisuke Anzai, Shigeya Mizuno, and Yutaka Yamauchi (Japan Mar. United Corp.)
13:40	D-3 Laboratory study of ice floe impact loads on a structure in waves ★E Hongtao Li, Takuji Waseda (Univ. Tokyo), Junji Sawamura (Univ. Osaka) and, Raed Lubbad (Norwegian Univ. Sci. Tech., Norway)
14:00	Break
	【E: Life in Cold Region/Interdisciplinary Area】 Chair, Shuhei Takahashi (Okhotsk Sea Ice Museum)
14:10	E-1 Exporting sweet mini tomato making system to Russia -Developing automated water supply system for highways in Hokkaido- ○Kanichiro Matsumura (Kinjo Univ.), Kuzin Vitaly Dmitreievich (Nizhny Novgorod Univ., Russia), and Satoshi Morita (Hokuriku Univ.)
14:30	E-2 “Temperature-adjustable bench” Kansei Assessment in Cold Regions -Nikko City zero carbon promotion project- Mayu Fujita, ○Kei Horio, Mizuna Kondou, Muhammad Nazeh Azhad Bin Muhammad Afifi, Jinseok Seo, Kyohei Kitazono, and Noriyoshi Yokoo (Utsunomiya Univ.)
14:50	E-3 The history and functions of the Antarctic midwinter festival in a closed environment ★I Tomoka Sugita (Hokkaido Univ.)
15:10	E-4 Co-creating walkable winter cities: A case study of the City of Sapporo Tran Thi Tu Uyen, Chinatsu Igarashi, Kristine Marie Apaya Casals, Eman H.E. Toulbah, and ○Marina Lomaeva (Hokkaido Univ.)
15:30	Break
15:40	E-5 Practical disaster preparedness education through the “Do-HUG” shelter management game: A case study from Noboribetsu City, Hokkaido ★I Yumi Nakano, and Tomoe Katoh (Hokkaido Univ.)
16:00	E-6 Russia’s post-2022 Arctic expert discourse: The Northern Sea Route and Asia ○Marina Lomaeva, Artem Suslov, and Juha Saunavaara (Hokkaido Univ.)
16:20	E-7 Tamamta (All of Us): Uplifting indigenous knowledge and stewardship to transform fisheries and education in Alaska ○Courtney Carothers, Jessica Black, Peter Westley, and Sonia Ibarra (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
16:40	E-8 Characteristics of social infrastructure development and maintenance for industrial creation in northern regions: Insights from linguistic data of next-generation executives of construction companies Tomoe Katoh, and ○Juha Saunavaara (Hokkaido Univ.)
17:00	E-9 Toward resilient futures: Integrating critical geopolitics and societal security foresight in Arctic urban sustainability ○Aileen Aseron Espiritu (UiT Arctic Univ. Norway, Norway)

	【F: Workshop, Exploring the Potential of AI and Machine Learning for Sea Ice Research】
13:00	Introduction and Chair, Jun Ono (NIPR)
13:05	F-1 Future developments of sea ice information utilizing AI and numerical models by ADS and the Arctic and Antarctic Sea Ice Information Center (ASIC) ○Hironori Yabuki, Takeshi Sugimura, Yoshihiro Niwa (NIPR), Motomu Oyama (Kogakuin Univ.), and Jun Ono (NIPR)
13:20	F-2 Development of a sea-ice prediction model with machine learning ○Jun Ono (NIPR), Motomu Oyama (Kogakuin Univ.), and Hironori Yabuki (NIPR)
13:35	F-3 Sea ice concentration prediction in the coastal region of Shiretoko using deep learning and a comparison between Utoro and Rausu ○Ayano Yoshida, and Kazutaka Tateyama (Kitami Inst. Tech.)
13:50	F-4 An attempt to automate shipborne visual sea ice observations using AI-driven analysis of onboard camera imagery ○Kazutaka Tateyama (Kitami Inst. Tech.), Seita Hoshino (Univ. Tokyo), and Midori Nagao (Kitami Inst. Tech.)
14:05	Discussion
14:20	Break

13:00	【G: Online Session】 -IARC and Sasakawa Peace Foundation- “Supporting Indigenous Approaches to Climate Change Response” by Sasakawa Peace Foundation and The International Arctic Research Center of the University of Alaska Fairbanks I. ○Atsushi Watanabe (Sasakawa Peace Foundation) and Yuta Komori (The Tokyo Foundation/Meiji Univ.) II. ○Hajo Eicken (Univ. Alaska Fairbanks, USA) Speakers: Go Iwahana, Courtney Carothers, Nick Jacuk, Sonia Ibarra, Roberta Tuurraq Glenn, Emily Lescak (Univ. Alaska Fairbanks, USA) and Billy Adams (Utqiagvik)	Chair, Natsuhiko Otsuka (Sasakawa Peace Foundation)
15:50	Break	
16:00	-Scientific Session- G-1 Characteristics of sea ice leads in the Laptev and East-Siberian Seas retrieved from SuomiNPP VIIRS images ○Anastasia A. Ershova, Lyudmila N. Dymant, Ekaterina G. Bojkaya, and Karina G. Kortikova (Arctic Antarctic Res. Inst., Russia)	Chair, Natsuhiko Otsuka (Sasakawa Peace Foundation) and Artem Suslov (Hokkaido Univ.)
16:20	G-2 On the features of pollution spreading in high latitudes ○Ferdinand Mkrtychyan, Evgeny Novichikhin, and Maxim Mkrtychyan (Kotelnikov Inst. Radioengineering Electronic, Russia)	
16:40	G-3 About remote monitoring systems to study of the marine ecosystems ○Ferdinand Mkrtychyan (Kotelnikov Inst. Radioengineering Electronic, Russia)	

	【H:Workshop, Arctic Governance at a Crossroads: Understanding Change and Exploring the Future】	
9:00	Introduction, Hajime Kimura (JAMSTEC)	
	I . Environmental Governance	Chair, Aki Tonami (Univ. Tsukuba)
9:05	H-1 Multilateral cooperation for cetacean conservation in northern seas: Regime complexes and institutional interplay ○Ayako Okubo (Tokai Univ.)	
9:25	H-2 The ICJ advisory opinion on climate change and the Arctic: Recognition of disproportionately higher risk and procedural participation of Arctic States ○Izumi Kubota (Ntl. Inst. Environmental Studies)	
9:45	H-3 Mechanisms of citizen participation and remedy in the new governance theory ○Aki Tonami (Univ. Tsukuba)	
10:05	Break	

	【H:Workshop, Arctic Governance at a Crossroads: Understanding Change and Exploring the Future】 II. Regional and Socio-Political Governance Chair, Juha Saunavaara (Hokkaido Univ.)
10:15	H-4 Institutional resilience of the Russia-Norway and Russia-Japan's post-2022 fisheries cooperation ○Marina Lomaeva (Hokkaido Univ.), Geir Hønneland (Fridtjof Nansen Inst., Norway), and Takeshi Hamada (Hokkai-Gakuen Univ.)
10:35	H-5 Local Communities in the Arctic infrastructure development driven by tourism and national security concerns ○Juha Saunavaara, and Takafumi Fukuyama (Hokkaido Univ.)
10:55	H-6 Economic development of the Russia's Arctic and Far Eastern Regions after 2022 ○Shinichiro Tabata (Hokkaido Univ.)
11:15	Lunch
	III. Scientific Governance Chair, Hajime Kimura (JAMSTEC)
13:00	H-7 The significance of the CAOFA in the current Arctic cooperation: Through the lense of science diplomacy ○Osamu Inagaki (Kobe Univ.)
13:20	H-8 Legal and practical considerations of marine scientific research in the Arctic Ocean -The case of Japan's new Arctic research vessel Mirai II- ○Hajime Kimura (JAMSTEC)
13:40	H-9 International economic law issues concerning indigenous traditional hunting: focusing on small cetacean subsistence hunts ○Tomohiko Kobayashi (Otaru Univ. Commerce)
14:00	Break
	IV. Arctic Policy Chair, Hajime Kimura (JAMSTEC)
14:10	H-10 Japan's Arctic policy network: Key actors in national diet discourse ○Artem Suslov, and Fujio Ohnishi (Hokkaido Univ.)
14:30	H-11 From rights on paper to Arctic policy in practice: Indigenous participation and energy transition ★I Sara Fusco (Univ. Lapland, Finland/Univ. Akureyri, Iceland)
14:50	H-12 Advancing Taiwan's Arctic engagement: Geopolitics, identity, and scientific stakeholding ○Aileen Aseron Espiritu, Marc Lanteigne (UiT Arctic Univ. Norway, Norway), and Tse-Kang Leng (Academia Sinica/Ntl. Chengchi Univ., Taiwan)
15:10	Discussion
15:30	Break
	【Public Program, How Do We Act at Enhancing Local Disaster Resilience ? 】 <i>(in Japanese language only)</i> Chair, Shuji Mori (Abashiri Develop. Constr. Dept., Hokkaido Develop. Bu.)
16:00	Introduction, Natsuhiko Otsuka (Okhotsk Sea Ice Museum/Symposium Committee Chair)
16:05	Lecture: I. New disaster prevention information provided from 2026 Akiko Miura (Abashiri Local Meteorological Observatory, Japan Meteorological Agcy.)
16:25	II. Efforts to improve disaster awareness in Hokkaido Akio Yamaguchi (Hokkaido Okhotsk General Promotion Bu.)
16:40	Break
16:50	Panel Discussion: -Learning about Self-Help and Mutual Assistance Initiatives such as Disaster Preparedness Education, Disaster Volunteer Activities, and Evacuation Shelter Management- Coordinator, Masahiro Nemoto (Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing)
	[Panelists] Osamu Ijima (Abashiri Local Meteorological Observatory) Akio Ishikawa (Mombetsu Shokotsu Junior High School) Moe Shimizu (Mombetsu City Social Welfare Council) Makoto Ishikawa (Mombetsu City)
	Review, Masahiro Nemoto (Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing)
17:55	Closing Remarks, Takehiko Suzuki (Abashiri Develop. Constr. Dept., Hokkaido Develop. Bu.)
19:00	Dinner Party with Volunteer Groups Mombetsu Central Hotel

【I:Workshop, Arctic Policy through Science and Human Activity】	
9:00	Introduction and Chair, Sakiko Hataya, (Sasakawa Peace Foundation) and Natsuhiko Otsuka (Sasakawa Peace Foundation/Hokkaido Univ./Okhotsk Sea Ice Museum)
9:05	I-1 Human activity and the Arctic Ocean ○Natsuhiko Otsuka (Sasakawa Peace Foundation/Hokkaido Univ./Okhotsk Sea Ice Museum)
9:25	I-2 Reviewing Japan's Arctic policy through the multi-sectoral study group ○Sakiko Hataya (Sasakawa Peace Foundation)
9:45	I-3 Japan's Arctic science contribution and science diplomacy ○Hiroyuki Enomoto (NIPR/Sasakawa Peace Foundation)
10:05	I-4 The Sasakawa Peace Foundation's Arctic initiatives: Looking at the past, present, and future ○Yuta Komori (The Tokyo Foundation/Meiji Univ.)
10:25	Break
【J:Workshop, The Changing Ice-Covered Ocean and New Utilization】	
10:35	Introduction and Chair, Takuji Waseda (Univ. Tokyo)
10:40	J-1 A new sea ice thickness dataset and its application to Arctic sea ice prediction ○Noriaki Kimura, Hiroyasu Hasumi, and Takuji Waseda (Univ. Tokyo)
11:00	J-2 Direct observation of an extreme landfast sea-ice melting event in Lützow-Holm Bay in 2025 triggered by winter breakup and amplified by ice-albedo feedback ○Tsubasa Kodaira, Takuji Waseda, Masato Ito, Ryota Tai, Daiki Okamoto, Kohei Mikami (Univ. Tokyo), and Daisuke Shimizu (NIPR)
11:20	J-3 Interannual variability of the ice-covered area in Saroma-ko Lagoon derived from Landsat imagery ○Taiga Nohara, and Kazutaka Tateyama (Kitami Inst. Tech.)
11:40	J-4 Development of artificial ice for reproducing ice bending failure ○Shingo Kojima, and Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
12:00	Lunch
Chair, Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)	
13:30	J-5 Simulating wave-induced ice fracture: an MPM approach with rotational degrees of freedom -Material point method with plate formulation- ○Igor Gribanov, Takuji Waseda (Univ. Tokyo), and Rocky Taylor (Memorial Univ. Newfoundland, Canada)
13:50	J-6 LIGGGHTS analysis of brash ice channel navigation ○Takaya Onishi, and Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
14:10	J-7 Development and validation of icebreaking simulation method using LS-DYNA ○Daichi Takahashi, and Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
14:30	J-8 Proposed large-scale in-situ lab testing at HERF: Advancing the characterization and modelling of sea ice deterioration for safe seasonal shipping ○Rocky Taylor (Memorial Univ. Newfoundland, Canada)
14:50	Break
Chair, Noriaki Kimura (Univ. Tokyo)	
15:00	J-9 Development of an Ice-MMG-Based Digital Twin Mockup for ships navigating in broken ice fields ○Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
15:20	J-10 SPH-DEM analysis of ice piece clearing around an ice-going ship ★E Akiyoshi Tsukuda, and Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
15:40	J-11 Numerical analysis of flow fields induced by ship-ice interaction using the overset method ★E Kaito Kimura, and Akihisa Konno (Kogakuin Univ.)
16:00	J-12 Interannual variability of wave systems inducing fast ice break-up in Lützow-Holm Bay ★E Ryota Tai (Univ. Tokyo), Takuji Waseda (Univ. Tokyo/JAMSTEC), and Tsubasa Kodaira (Univ. Tokyo)
16:20	Break
Chair, Tsubasa Kodaira (Univ. Tokyo)	
16:30	J-13 From experiments to theory: Dissipation-driven spectral downshifting of waves under ice ★E Koya Sato (Univ. Tokyo), Takuji Waseda (Univ. Tokyo/JAMSTEC), and Tsubasa Kodaira (Univ. Tokyo)

	【J:Workshop, The Changing Ice-Covered Ocean and New Utilization】	
	Chair, Tsubasa Kodaira (Univ. Tokyo)	
16:50	J-14 Wave attenuation in the marginal ice zone ★P Alberto Alberello, Rhys Ransome, and Davide Proment (Univ. East Anglia, UK)	
17:10	J-15 Hydroelastic waves on floating ice plates ○Emilian Parau (Univ. East Anglia, UK), Claudia Tugulan, and Olga Trichtchenko (Univ. Western Ontario, Canada)	
17:30	J-16 Detecting directional wave spectrum in ice and ice floe deformation -Preliminary results from JOIS 2025- ○Takuji Waseda, Koya Sato (Univ. Tokyo), and Jean Rabault (Norwegian Meteorological Inst., Norway)	
17:50	Discussion	
19:00	Dinner Party with Volunteer Groups Mombetsu Central Hotel	

	【K:Physical and Chemical Oceanography/Climate】	
	Chair, Kazutaka Tateyama (Kitami Inst. Tech.)	
9:00	K-1 Barotropic water exchange between the ice cavity and the open ocean in a non-friction fluid ○Nan Yuan (Tohoku Univ.), Humio Mitsudera (Hokkaido Univ.), and Sayaka Yasunaka (Tohoku Univ.)	
9:20	K-2 Triggering mechanism of the 2014 abrupt subsurface warming in the Bering Sea: A numerical study ○Hung-Wei Shu (JAMSTEC), Hiroaki Tatebe (JAMSTEC/Japan Advanced Inst. Mar. Ecosys. Change), Tatsuo Suzuki, Takao Kawasaki, Yoshiki Komuro (JAMSTEC), and Shinya Kouketsu (Japan Advanced Ins. Mar. Ecosys. Change/JAMSTEC)	
9:40	K-3 Possible role of Japan Trench topography in the anomalous northward penetration of the Kuroshio extension ○Toru Miyama (JAMSTEC)	
10:00	Break	
	Chair, Hung-Wei Shu (JAMSTEC)	
10:10	K-4 Basic research on runoff characteristics in small river basins in Qaanaaq Village ○Gaku Tanaka, Taro Mori, and Iku Kishita (Hokkaido Univ.)	
10:30	K-5 Origins and formation process of atmospheric organic aerosol in the southern Sea of Okhotsk during the phytoplankton bloom in spring ★I Zhengyang Fang, Yuzo Miyazaki, Eri Tachibana (Hokkaido Univ.), Hitomi Yoshida (Garinko Tower Co., Ltd.), Katsushi Iwamoto, and Seiji Katakura (Mombetsu City)	
10:50	K-6 Temporal and spatial changes in mineral dust composition deposited on an alpine snowpack ★P Pia Ataka, Ryo Sugiyama, Noboru Furukawa, and Nozomu Takeuchi (Chiba Univ.)	
11:10	K-7 Leveraging InSAR and field observations in revealing long-term post-fire permafrost evolution in north Yukon ○Zetao Cao, and Masato Furuya (Hokkaido Univ.)	
11:30	Lunch	
	【L:Workshop, Interactions between the Antarctic Ice Sheet and the Global Climate System】	
13:00	Introduction and Chair, Masashi Machida (Hokkaido Univ.)	
13:05	L-1 Numerical modeling of ocean circulation and ice shelf melt process in the Weddell Sea ★P Hiroki Moriyoshi (Hokkaido Univ.), Yoshihiro Nakayama (Dartmouth College, USA), Mathias van Caspel, Markus Janout (Alfred-Wegener-Inst. Helmholtz Ctr. Polar Mar. Res., Germany), and Alena Malyarenko (Univ. Canterbury, New Zealand)	
13:25	L-2 Tracing sediment provenance to decode Aurora Basin dynamics during past super interglacials ○Javier Maldonado-Ugarte, Osamu Seki (Hokkaido Univ.), Keiji Horikawa (Toyama Univ.), Tomohisa Irino (Hokkaido Univ.), Takuya Itaki, and Saki Ishino (Ntl. Inst. Adv. Indus. Sci. Tech.)	
13:45	L-3 Understanding meltwater dynamics in west Greenland ★P Wakaba Otani (Hokkaido Univ.), Yoshihiro Nakayama (Dartmouth College, USA), Michael Wood (Moss Landing Mar. Lab., USA), Ian Fenty (NASA, USA), Claudia Wekerle (Alfred Wegener Inst., Germany), and Vigan Mensah (Hokkaido Univ.)	
14:05	L-4 Role of eddies in the transformation of Dense Shelf water into Antarctic bottom water off Cape Darnley ★P Masashi Machida, Kay I. Ohshima, Vigan Mensah (Hokkaido Univ.), Daisuke Simizu (NIPR), Kazuki Nakata (JAXA), Mizuki Kuga (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), Alex Fraser (Univ. Tasmania, Australia), Takeshi Tamura (NIPR), and Yasushi Fukamachi (Hokkaido Univ.)	
14:25	L-5 Global climate implications through Antarctic ice–ocean interaction during the Last Interglacial ★I Mutsumi Iizuka, Takuya Itaki (Ntl. Inst. Adv. Indus. Sci. Tech.), Masanobu Yamamoto, and Osamu Seki (Hokkaido Univ.)	
14:45	Break	

Tuesday 17 Feb. 2026

Meeting Room, 3F, Arts & Culture Center

14:55	[M:Workshop, The Okhotsk Sea: Unique Weather and Climate Generated by the Earth's Cool Spot] Introduction and Chair, Meiji Honda (Nigata Univ.)
15:00	M-1 Reconstruction of climate change in the early 19th century around Hokkaido ○Yoshio Tagami (Toyama Univ.)
15:20	M-2 Sea ice conditions in the Sea of Okhotsk in the 2024/2025 winter season ○Mitsuhiro Komuro, Satoshi Sugimoto, Keiji Hamada, and Yuji Akasaka (Japan Meteorological Agcy.)
15:40	M-3 Relationship between sea ice variability in the southern Sea of Okhotsk and the East Sakhalin Current ○Yuka Sawa (Univ. Tsukuba), Hiroshi Kuroda (Hokkaido Univ.), Takuya Nakanowatari (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), and Hiroaki Ueda (Univ. Tsukuba)
16:00	M-4 Distribution tendencies of Japan-Sea Polar-Airmass Convergence Zone (JPCZ) and characteristics of the atmospheric field ★P Satomu Takahashi, Meiji Honda, and Naoya Takahashi (Nigata Univ.)
16:20	M-5 Rapid surface pressure drops in wintertime Meso-β-Scale disturbances using high-frequency observations ★P Karen Uchibori, Meiji Honda, and Naoya Takahashi (Nigata Univ.)
16:40	Break
16:50	M-6 Inertia-gravity waves around a cutoff low observed over the North Pacific off the Tohoku in the summer of 2025 ★P Masami Nakao (Niigata Univ.), Fumiaki Ogawa (Mie Univ.), Satoru Kasuga (Mie Univ./Hokkaido Univ.), and Meiji Honda (Niigata Univ.)
17:10	M-7 Midlatitude marine warming and summer atmospheric responses during 2023-2025: Implications for sustained heat extremes in East Asia ○Hiroaki Ueda (Univ. Tsukuba), Masaya Kuramochi (Japan Meteorological Agcy.), Keisuke Morimoto, Yuki Shigihara, Ayumu Tsukada, Satoru Okajima, Tomoshige Inoue (Univ. Tsukuba), and Shuhei Maeda (Japan Meteorological Agcy.)
17:30	M-8 Influence of the Okhotsk Sea on the wintertime snowfall in the Japan Sea coast ○Meiji Honda (Nigata Univ.), Yoshihiro Tachibana (Mie Univ.), Takahiro Toyoda (Meteorological Res. Inst.), Hiroaki Ueda (Univ. Tsukuba), and Katsushi Iwamoto (Mombetsu City)
19:00	Dinner Party with Volunteer Groups Mombetsu Central Hotel

Tuesday 17 Feb. 2026

Mombetsu Municipal Museum

	[N:Workshop, Plankton Ecology in Cold Regions: From Molecules to Ecosystems] Introduction and Chair, Junya Hirai (Univ. Tokyo)
9:00	
9:05	N-1 Physiological responses of growth and photosynthesis of the Antarctic cryptophyte <i>Geminigera cryophila</i> to changes in temperature, light, and salinity ★B Ren Shimada and Koji Suzuki (Hokkaido Univ.)
9:25	N-2 Contrasting toxicity profiles and population genetics reveal a north-south divide in <i>Dinophysis fortii</i> ○Satoshi Nagai, Hajime Uchida, (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), Akira Miyazono, Takanori Kuribayashi (Ctrl. Fish. Res. Inst., Hokkaido Res. Org.), Yasufumi Hada (Headquarters, Hokkaido Res. Org.), Masafumi Natsuike (Hakodate Fish. Res. Inst., Hokkaido Res. Org.), Yuki Kosaka (Aomori Pref. Indus. Tech. Res. Ctr.), Kazutaka Miyahara (Hyogo Pref. Tech. Ctr. Agriculture), Kana Yamamoto (Nagasaki Pref. Inst. Fish.), Yuki Funakoshi (Kyoto Pref. Agriculture, Forestry Fish. Tech. Ctr.), Sirje Sildever (Tallinn Univ. Tech., Estonia), Wai Mun Lum (Mie Univ.), Natsuko Nakayama, Ryoji Matsushima (Japan Fish. Res. Educ. Agcy.), Toshiyuki Susuki (Kitasato Univ.), Kenji Takata (Ntl. Inst. Adv. Indus. Sci. Tech.), Nina Yasuda (Univ. Tokyo), Naoko Ishikawa, Ying-Hong He, and Yoshihisa Suyama (Tohoku Univ.)
9:45	N-3 Satellite remote sensing for harmful algae monitoring in Hokkaido Waters ○Takafumi Hirata (Hokkaido Univ.), Daichi Arima (Ctrl. Fish. Res. Inst., Hokkaido Res. Org.), Noriko Azuma, Megumu Takahashi (Tokyo Univ. Agriculture), Natsuhiko Otsuka (Okhotsk Sea Ice Museum), Katsushi Iwamoto, Seiji Katakura (Mombetsu City), Yuko Arai-Kichise (Tokyo Univ. Agriculture), and Yuh Shiwa (Tokyo Univ. Agriculture)
10:05	N-4 Long-term (from 1997 to 2025) changes of zooplankton community based on functional traits in the Mombetsu Port, southern Okhotsk Sea ★B Dongwoo Kim, Kohei Matsuno (Hokkaido Univ.), Seiji Katakura, Soshi Hamaoka, Katsushi Iwamoto (Mombetsu City), and Atsushi Yamaguchi (Hokkaido Univ.)
10:25	Break

The Aota Masaaki Award Candidate ★E:Engineering, ★P:Physics, ★B:Biology, ★I:Interdisciplinary

	【N:Workshop, Plankton Ecology in Cold Regions: From Molecules to Ecosystems】 Chair, Junya Hirai (Univ. Tokyo)
10:35	N-5 Seasonal change of jellyfish species composition and abundance between spring and fall 2025 around the Okhotsk Tower, Mombetsu, Hokkaido ★B Syota Mukai (Tokai Univ.), Seiji Katakura, Katsushi Iwamoto (Mombetsu City), Tomonori Isada (Hokkaido Univ.), and Yuichi Nosaka (Tokai Univ.)
10:55	N-6 Effects of ocean acidification on larval shell development in scallop ○Keisuke Shimizu, Katsunori Kimoto and Masahide Wakita (JAMSTEC)
11:15	N-7 Molecular-based analyses revealing zooplankton diversity during sea ice period in the Okhotsk Sea ○Junya Hirai (Univ. Tokyo), Atsushi Yamaguchi (Hokkaido Univ.), and Seiji Katakura (Mombetsu City)
11:35	N-8 Population structure of the copepod <i>Calanus glacialis</i> in the high-latitude regions of the Northern Hemisphere ★B Nanami Yumura (Univ. Tokyo), Seiji Katakura (Mombetsu City), Kohei Matsuno (Hokkaido Univ.), and Junya Hirai (Univ. Tokyo)
11:55	Lunch
	【O:Workshop, Current Situation and Issues of Studies on Stock Management and Stock Enhancement in Hokkaido, Japan】
13:30	Introduction and Chair, Nobukazu Sato (Hokkaido Res. Org. Mariculture Fish. Res. Inst.)
13:35	O-1 Current situation and issues of studies on stock management and stock enhancement in Hokkaido, Japan ○Nobukazu Sato (Hokkaido Res. Org. Mariculture Fish. Res. Inst.)
13:55	O-2 Current status and challenges in research on whelk resource management in the Pacific coast of Hokkaido, Japan ○Koudai Takahashi, and Yasuhiro Kuwahara (Hokkaido Res. Org. Mariculture Fish. Res. Inst.)
14:15	O-3 High water temperature tolerance of barfin flounder <i>Verasper moseri</i> juvenile ○Naoyuki Misaka, and Taihei Matsuda (Hokkaido Res. Org. Mariculture Fish. Res. Inst.)
14:35	O-4 Species composition of estuarine fish assemblages in Hidaka Bay ★B Junki Ataka, Koudai Takahashi, Hideo Takahara, Yasuhiro Kuwahara, and Rei Sakanoue (Hokkaido Res. Org. Mariculture Fish. Res. Inst.)
14:55	Break
	【P:Workshop, Seabirds and Marine Mammals in Response to Environmental and Social Change】
15:05	Introduction and Chair, Yuta Sakuragi (Kyoto Univ.)
15:10	P-1 Camera and microphone monitoring of key sea-birds in Greenland (Little auks) ○E. A. Podolskiy, J. B. Thiebot, (Hokkaido Univ.) M. Ogawa (NIPR/Hokkaido Univ.), L. Paker (Univ. Bremen, Germany), M. Niwano (Meteorological Res. Inst.), R. Kusaka (Hokkaido Museum of Northern Peoples), A. Yushima (Hokkaido Univ.), K. L. Johansen, A. Mosbech (Aarhus Univ., Denmark), and S. Sugiyama (Hokkaido Univ.)
15:30	P-2 Observations of narwhal sounds from boat-based hydroacoustic recordings in northwestern Greenland: comparison with passive acoustic monitoring ★B Sara Kim (Kyoto Univ.), Evgeny A. Podolskiy (Hokkaido Univ.), Monica Ogawa (NIPR), Yuta Sakuragi, and Yoko Mitani (Kyoto Univ.)
15:50	P-3 From the sky: Drone-based behavioral observation of Arctic cetaceans ○Monica Ogawa (NIPR), Mamarut Kristiansen (Qaanaaq, Greenland), and Evgeny Podolskiy (Hokkaido Univ.)
16:10	P-4 Seasonal relationships between marine environmental dynamics and behavioral responses of ringed seals at tidewater glacier fronts ○Yuta Sakuragi (Kyoto Univ.), Aqqalu Rosing-Asvid (Greenland Inst. Natural Resources), Yefan Wang (Univ. Edinburgh, UK), Shin Sugiyama (Hokkaido Univ.), and Yoko Mitani (Kyoto Univ.)
16:30	Break

	[P:Workshop, Seabirds and Marine Mammals in Response to Environmental and Social Change] Introduction and Chair, Yuta Sakuragi (Kyoto Univ.)
16:40	P-5 Estimation of spatial distribution pattern and its seasonal change of Baird's beaked whales in the waters around Japan based on a species distribution model ★B Shiho Furumaki, Hiroko Sasaki, Hikari Maeda, Shingo Minamikawa, and Yu Kanaji (Japan Fish. Res. Educ. Agey.)
17:00	P-6 Extinction risk assessment based on whole-genome analyses of spotted seals (<i>Phoca largha</i>) and ringed seals (<i>Pusa hispida</i>) rescued at the Okhotsk Tokkari Center ★B Momoka Suzuki, Yu Sato (Kyoto Univ.), Miku Watanabe (Okhotsk Tokkari Center), Miho Murayama, and Yoko Mitani (Kyoto Univ.)
17:20	P-7 Uplifting equity in science: Sea Otter impacts on traditional foods in Alaska ○Sonia Ibarra (Univ. Alaska Fairbanks, USA)
17:40	P-8 A Glimpse of Greenland's food through the eyes of researchers ○Yoko Mitani, Yuta Sakuragi, Sara Kim (Kyoto Univ.), Kotaro Yazawa (Hokkaido Univ.), Makoto Tomiyasu, Kohei Hasegawa, Jean-Baptiste Thiebot, Jun Uetake (Hokkaido Univ.), Ryo Kusaka (Hokkaido Museum of Northern Peoples), Naotaka Hayashi (Univ. Calgary, Canada), and Jun Akamine (Hitotsubashi Univ.)
19:00	Dinner Party with Volunteer Groups Mombetsu Central Hotel

9:00	[Q:Workshop, Career Development for Young Researchers in Arctic and Antarctic Research] Introduction and Chair, Shin Sugiyama (Hokkaido Univ.) <i>(in Japanese language only)</i> The ArCS-3 project conducts initiatives such as overseas assignments for young researchers, field training, research cruises, and special lectures to foster the next generation of scientists. This session will feature young researchers and graduate students who participated in these programs, researchers implementing similar initiatives, and individuals broadly involved in polar science education, and we will introduce efforts to cultivate the next generation. We hope young researchers will find this useful as they design their own career paths.
9:05	Q-1 Introduction to ArCS-3 program aimed at human resource development ○Monica Ogawa (NIPR)
9:15	Q-2 Educational programs of Hokkaido University in collaboration with ArCS III ○Shin Sugiyama (Hokkaido Univ.)
9:25	Q-3 Arctic cruise aboard the Floating Campus Oshoro-Maru -Focusing on the ArCSII&III public field training ○Fujio Ohnishi (Hokkaido Univ.)
9:35	Q-4 Swiss Alpine glacier fieldwork and its relevance to Polar research ○Tomoka Sugita (Hokkaido Univ.), and Pia Ataka (Chiba Univ.)
9:45	Q-5 Overview of a contamination survey of Blue Mussels influenced by dumpsites in northwestern Greenland ○Masaki Yamano (Hokkaido Univ.) Marine mammal field surveys in northwestern Greenland ○Sara Kim (Kyoto Univ.) Leveraging InSAR and field observations in revealing long-term post-fire permafrost evolution in North Yukon ○Zetao Cao (Hokkaido Univ.)
10:00	Q-6 Sasakawa Peace Foundation's Activities on Arctic Ocean capacity development ○Atsushi Watanabe (Sasakawa Peace Foundation), and Gunnar Rekvig (Arctic Univ. Norway, Norway/Sasakawa Peace Foundation)
10:15	Q-7 My career journey to date and future path ○Hisatomo Waga (Univ. Alaska Fairbanks, USA/NIPR)
10:25	Exchange of Opinions and Proposals from Young Stakeholders ○Monika Ogawa, and Atsushi Yoshida (NIPR)
10:50	Break

Wednesday 18 Feb. 2026**Hall, 1F, Arts & Culture Center**

11:00	【Closing Session】 •A Review of the Symposium •Prize-awarding Ceremony of the Aota Masaaki Award •Closing Remarks, Natsuhiko Otsuka (Chair of the Symposium Committee) Chair, Seiji Katakura (Mombetsu City)
12:00	Lunch
14:00 16:00	【Public Program, Symposium on the Forest-Ocean Linkage】 <i>(in Japanese language only)</i> Current State of Cutting-Edge Forestry - Development of High-Hardness Materials Using Densification Technology Applied to Larch-- Opening Remarks: Masatoshi Nakamura (Mombetsu City) Lecture I. Background and objectives of the densification technology Takanobu Sasaki (Hokkaido Univ.) II. Manufacturing methods and fundamental properties of densified larch wood Naoyuki Furuta (Forest Products Res. Inst.) III. Strength testing of furniture joints made from densified larch wood Yuka Tsukamoto (Hokkaido Univ.) IV. Chair development and commercialization using densified larch wood Yuichiro Yamagami (Yamagami Mokko Co., Ltd.) Pannel Discussion

Wednesday 18 Feb. 2026**Mombetsu Municipal Museum**

13:30 17:20	【Public Program, The Okhotsk Terroir Symposium 2026 in Mombetsu】 <i>(in Japanese language only)</i> Chair Shin'ichi Chonan (Okhotsk Terroir) -The Message Left by the Okhotsk Culture: Exploring the Origins of Okhotsk Culture and the Future and Potential of Okhotsk Tourism: Part 3- Convener Remarks: Hiroshi Daikoku (Okhotsk Terroir) Part 1 Exploring Ideas for Sharing Okhotsk with the World through Practical Reports from Various Fields Lecture: I. Tourism utilizing archaeological sites Masahiko Tasai (Cultural Heritage Support) II. On publishing travel with Jomon art Kyoko Shimizu (Kyuryudo Publishing) III. The potential of a journey exploring Okhotsk culture Aasami Miyashita (Hokkaido Univ.) IV. On the future of eastern Hokkaido Takuro Nakanishi (Dot Eastern Hokkaido) Part 2 Pannel Discussion
---------------------	--

Monday 16 - Wednesday 18 Feb.**Exhibition****Lobby, 3F, Art & Culture Center**

	【Extra】 Ex-1 End of the Kuroshio large meander in 2017-2025 Takao Nakajin (Tokai Univ.) Ex-2 Centennial of the Hakuai Maru Incident, The Crab Cannery Ship Novel-The history of canned crab and Mombetsu Masaya Yamada (Hokkaido Assoc. Protection of Cultural Property)
--	--

Wednesday 18 Feb. 2026**Mombetsu Citizens' Public Hall**

13:10 14:30	【Symposium on Sea Ice for Children】 <i>(in Japanese language only)</i> I. Sea ice, the Sea of Okhotsk, and earth's environment Chair, Hajime Takahashi (Mombetsu City) Natsuhiko Otsuka (Okhotsk Sea Ice Museum) II. Life in the Arctic Richard Paton, and Geneva Noble (Mar. Wildlife Stewardship, Qikiqtani Inuit Assoc., Canada) Drift Ice Quiz
---------------------	--

【Exhibition】

Okhotsk Story 7 Photo Exhibition – Precious Moments

With the aim of sharing the appeal of the Okhotsk region with people in Hokkaido and beyond, this exhibition presents the region's distinctive natural landscapes, flora, and fauna through a collection of uniquely expressive photographs.

40 年前…第 1 回の北方圏国際シンポジウムが開催されました。

1986年(昭和61年) 2月12日(水)～14日(金)

昭和40年、紋別市に設置された北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設の開設20周年記念および故田畑忠司教授の追悼式をかねて、国際シンポジウムを開催した。

開会式では野村委員長と金田市長が挨拶、横路孝弘 北海道知事、新沼浩 道議、真田真 北海道開発局長、山崎昭 海上保安庁水路部長、木村邦夫 水産庁研究部長、佐藤充克 北海道電気通信監理局長、長谷部純雄 北方圏センター専務、星合孝男 国立極地研究所教授、永田豊 東京大学教授らが祝辞を、更に「流氷研究施設開設20周年記念式典」開催に際して、木下誠一 北海道大学低温科学研究所長が謝辞をのべた。

式典ではアラスカ大学海洋研究所のベラ・アレキサンダー教授がモーツアルトの曲をピアノ演奏。米国極地工学研究所のW・F ウィークス博士がコントラバスの演奏を行い、故・田畑忠司教授を追悼した。ウィークス博士は田畑教授とは友人付き合いをしていた方で、ウィークス博士はワインシュタインの「二つのモーダルソロ」という曲を弾きながら、感慨深そうだった。



主 催: 北海道大学低温科学研究所
氷海工学研究グループ
オホーツク海沿岸海況漁況調査事業推進協議会

開催発起人: Vera Alexander, Juan G. Roederer (アラスカ大学)
W. F. Weeks (アメリカ国立極地研究所), 氷海工学研究グループ,
大島正直氏 (三井造船), 赤星氏 (三菱重工業), 須藤氏 (日本鋼管),
島田氏 (新日本製鉄), 原田氏 (鹿島建設), 真保氏 (石川島播磨重工業),
井畔氏 (清水建設), 丹羽氏 (五洋建設), 西尾氏 (国立極地研究所),
布施昌敏氏 (サハリン石油), 伊藤喜栄氏 (大成建設),
佐伯浩氏 (北海道大学), 北川弘光氏 (船舶技術研究所)
その他 大学, 海上保安庁, 水産試験場 等

特別講演: Alexander (アラスカ大学), H. J. Niebauer (アラスカ大学)

参加外国人: Vera Alexander, H. J. Niebauer, J. G. Roederer, J. J. Kelley,
T. A. Gosink (アラスカ大学), W. F. Weeks, G. F. N. Cox (米国極地工学研究所),
W. Liangwei (中国氷河学研究所), W. Xuyu (中国海洋環境研究所)
丁良模 ティリヨウモ (中国: 筑波大研究生)



*Photos by
Kazutaka Tateyama (Cover),
Kei Matsumoto (Cover Eng-ver.), and Shuhei Takahashi*

Organized and Sponsored by

Okhotsk Sea and Polar Oceans Research Association (OSPORA)
Arctic Research Center, Hokkaido University (ARC)
National Institute of Polar Research (NIPR)
Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC)
Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University (ILTS)
Kitami Institute of Technology (KIT)
Tokai University, Sapporo Campus
Tokyo University of Agriculture, Faculty of Bioindustry
Tokyo University of Marine Science and Technology
Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University
Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University
Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo (AORI)
Hokkaido National Fisheries Research Institute
Japan Consortium for Arctic Environmental Research (JCAR)
City of Mombetsu

Secretariat of Mombetsu Symposium

Kaiyokoryukan, Kaiyokoen 1, Mombetsu,
Hokkaido 094-0031, Japan
Phone: +81-158-26-2810 Fax: +81-158-26-2812
E-mail: momsyst@okhotsk-mombetsu.jp
<http://okhotsk-mombetsu.jp/okhsympo/top-index.html>

北方圏国際シンポジウム実行委員会

〒094-0031 北海道紋別市 海洋公園1番地 海洋交流館内